第二種特定鳥獣管理計画に基づく
令和７年度実施報告

（ニホンジカ）

令和８年 10 月

静　　岡　　県

目　　　　　　　　次

第１　報告の目的……………………………………………………1

第２　実施の期間……………………………………………………1

第３　実施の区域……………………………………………………1

第４　伊豆地域（伊豆地域個体群）…………………………………2

第５　富士地域（富士地域個体群）…………………………………16

第６　富士川以西地域（南アルプス地域個体群）…………………31

資料編…………………………………………………………………46

第１　報告の概要

この報告書は、令和４年３月に策定した第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）（第５期）に基づき、県内に生息するニホンジカを適正に管理するため、令和７年度の実施結果をとりまとめた。

第２　実施の期間

実施の期間は、令和７年４月１日から令和８年３月 31 日までとする。

第３　実施の区域

実施の区域は、第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）（第５期）に基づき県内全域とし、以下の区域に分けて実施する（図１）。

①伊豆地域・・・・・・沼津市(狩野川放水路以南の区域)、伊東市、熱海市、下田市、
（伊豆地域個体群）　伊豆市、伊豆の国市、賀茂郡(東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町)及び田方郡函南町を含む地域

②富士地域・・・・・・三島市、裾野市、御殿場市、富士市(富士川以東の区域)、富士宮市(富士川以東の区域)、沼津市(狩野川放水路以北の区域)及び駿東郡(清水町・長泉町・小山町)を含む地域
（富士地域個体群）

③富士川以西地域・・・富士市(富士川以西の区域)、富士宮市(富士川以西の区域)、
（南アルプス地域個体群）　静岡市、藤枝市、焼津市、島田市、牧之原市、菊川市、御前崎市、掛川市、袋井市、磐田市、浜松市、湖西市、榛原郡（吉田町・川根本町）及び周智郡森町を含む地域

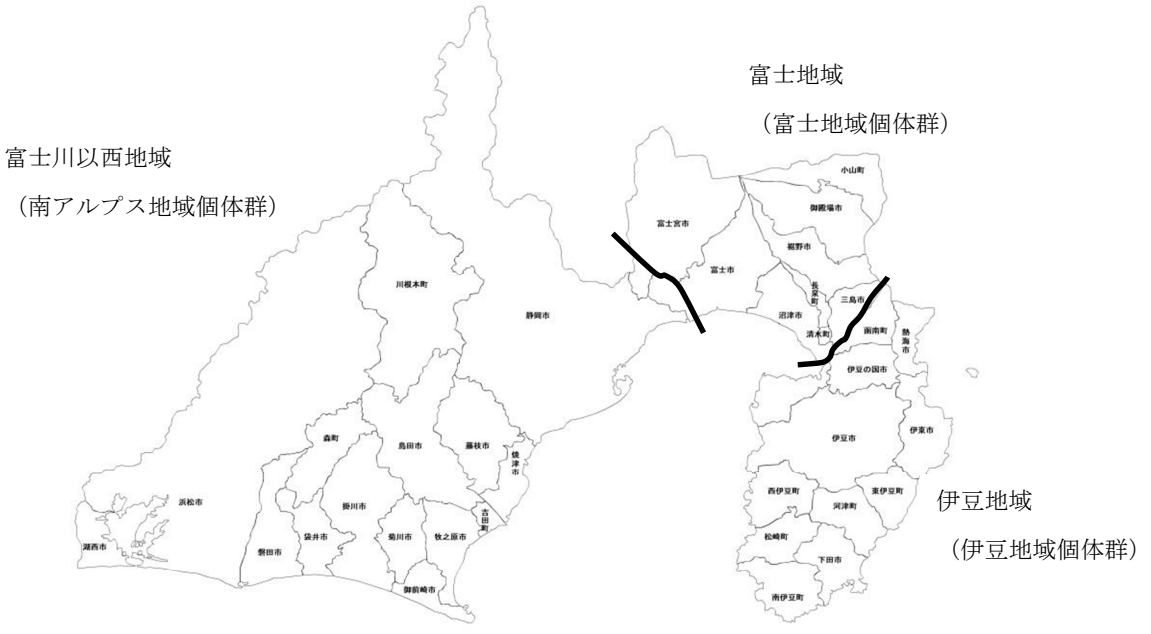


図１　計画区域図

第４　伊豆地域（伊豆地域個体群）

市町が立てる「被害防止計画」との整合性を図り、各市町と連携した対策を行うため、各市町の行政境をベースとした 12 ユニットに区分し、管理を行う（図２－１）。

〔管理ユニット（平成 31 年４月１日～）〕

沼津市	沼津市の一部（狩野川放水路以南）の区域
伊東市	伊東市の区域
熱海市	熱海市の区域
伊豆市	伊豆市の区域
伊豆の国市	伊豆の国市の区域
函南町	田方郡函南町の区域
東伊豆町	賀茂郡東伊豆町の区域
河津町	賀茂郡河津町の区域
南伊豆町	賀茂郡南伊豆町の区域
下田市	下田市の区域
松崎町	賀茂郡松崎町の区域
西伊豆町	賀茂郡西伊豆町の区域

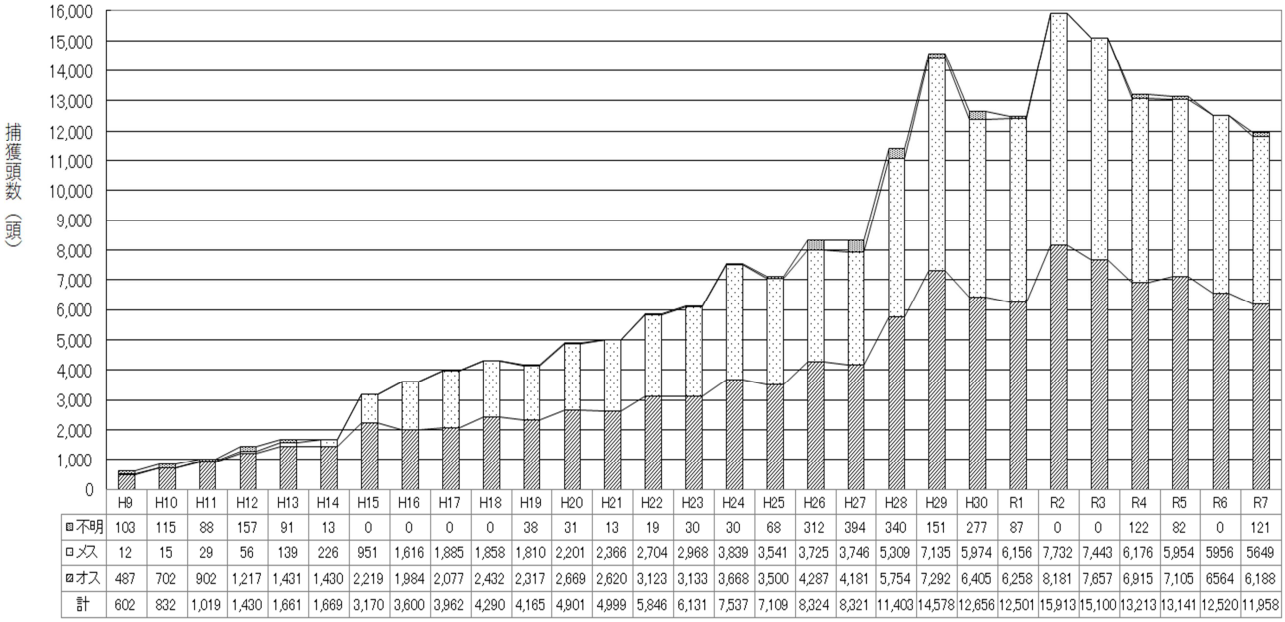


図２-１　伊豆地域管理ユニット

１　捕獲頭数

（１）雌雄別捕獲結果

・伊豆地域における令和７年度のニホンジカの捕獲頭数は 11,958 頭（速報値）で、目標頭数（15,950 頭）の 75%であり、前年度より 562 頭減少した。うち、メスの割合は 47%であった（図２－２）。



	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
□不明	103	115	88	157	91	13	0	0	0	0	38	31	13	19	30	30	68	312	394	340	151	277	87	0	0	122	82	0	121
□メス	12	15	29	56	139	226	951	1,616	1,885	1,858	1,810	2,201	2,366	2,704	2,968	3,839	3,541	3,725	3,746	5,309	7,135	5,974	6,156	7,732	7,443	6,176	5,954	5956	5649
▨オス	487	702	902	1,217	1,431	1,430	2,219	1,984	2,077	2,432	2,317	2,669	2,620	3,123	3,133	3,668	3,500	4,287	4,181	5,754	7,292	6,405	6,258	8,181	7,657	6,915	7,105	6564	6,188
計	602	832	1,019	1,430	1,661	1,669	3,170	3,600	3,962	4,290	4,165	4,901	4,999	5,846	6,131	7,537	7,109	8,324	8,321	11,403	14,578	12,656	12,501	15,913	15,100	13,213	13,141	12,520	11,958

図２-２　伊豆地域におけるニホンジカ捕獲頭数の推移（雌雄別）

（２）管理ユニット別捕獲結果

・多くの管理ユニットで、令和２年度から減少傾向が見られるが、函南町と東伊豆町では昨年度と比較し捕獲頭数が２割以上となった。（表２－１、図２－３）。

表２－１　伊豆地域市町別捕獲状況　（単位：頭）

管理ユニット	主要な生息域の推定分布面積(㎢)	性別	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度		
			実績	実績	実績	実績	実績		捕獲頭数/推定生息頭数
沼津市	51	オス	746	643	558	596	502		
		メス	617	488	472	446	310		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	1,363	1,131	1,030	1,042	**812**	**(15.9頭/k㎡)** ▽	0.33
伊東市	52	オス	404	326	535	317	343		
		メス	416	289	262	376	345		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	820	615	797	693	**688**	**(13.2頭/k㎡)** ▽	0.28
熱海市	31	オス	27	45	49	107	63		
		メス	18	24	41	66	86		
		不明	0	0	0	0	38		
		計	45	69	90	173	**187**	**(6.0頭/k㎡)** △	3.28
伊豆市	300	オス	2,328	1,866	2,006	1,642	1,527		
		メス	2,457	1,969	1,775	1,675	1,527		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	4,785	3,835	3,781	3,317	**3,054**	**(10.2頭/k㎡)** ▽	0.29
伊豆の国市	48	オス	182	303	255	310	345		
		メス	155	197	207	179	219		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	337	500	462	489	**564**	**(11.8頭/k㎡)** △	0.27
函南町	37	オス	62	76	54	45	101		
		メス	33	49	43	56	75		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	95	125	97	101	**176**	**(4.8頭/k㎡)** ▲	0.35
東伊豆町	58	オス	582	604	552	470	655		
		メス	629	564	498	478	649		
		不明	0	119	82	0	11		
		計	1,211	1,287	1,132	948	**1,315**	**(22.7頭/k㎡)** ▲	0.36
河津町	83	オス	766	694	634	619	583		
		メス	662	560	492	409	448		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	1,428	1,254	1,126	1,028	**1,031**	**(12.4頭/k㎡)** △	0.48
南伊豆町	59	オス	504	500	573	689	439		
		メス	396	351	407	514	423		
		不明	0	0	0	0	72		
		計	900	851	980	1,203	**934**	**(15.8頭/k㎡)** ▽	0.41
下田市	54	オス	647	672	752	676	648		
		メス	601	631	721	682	706		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	1,248	1,303	1,473	1,358	**1,354**	**(25.1頭/k㎡)** ▽	0.35
松崎町	66	オス	581	439	514	515	467		
		メス	591	434	466	511	440		
		不明	0	3	0	0	0		
		計	1,172	876	980	1,026	**907**	**(13.7頭/k㎡)** ▽	0.33
西伊豆町	91	オス	828	747	623	578	515		
		メス	868	620	570	564	421		
		不明	0	0	0	0	0		
		計	1,696	1,367	1,193	1,142	**936**	**(10.3頭/k㎡)** ▽	0.25
計	930	オス	7,657	6,915	7,105	6,564	6,188		
		メス	7,443	6,176	5,954	5,956	5,649		
		不明	0	122	82	0	121		
		計	15,100	13,213	13,141	12,520	**11,958**	**(12.9頭/k㎡)** ▽	0.32

（注）△は前年度と比較して数値が増加、▽は減少したことを示す。なお、２割以上の増減は黒塗りしている。

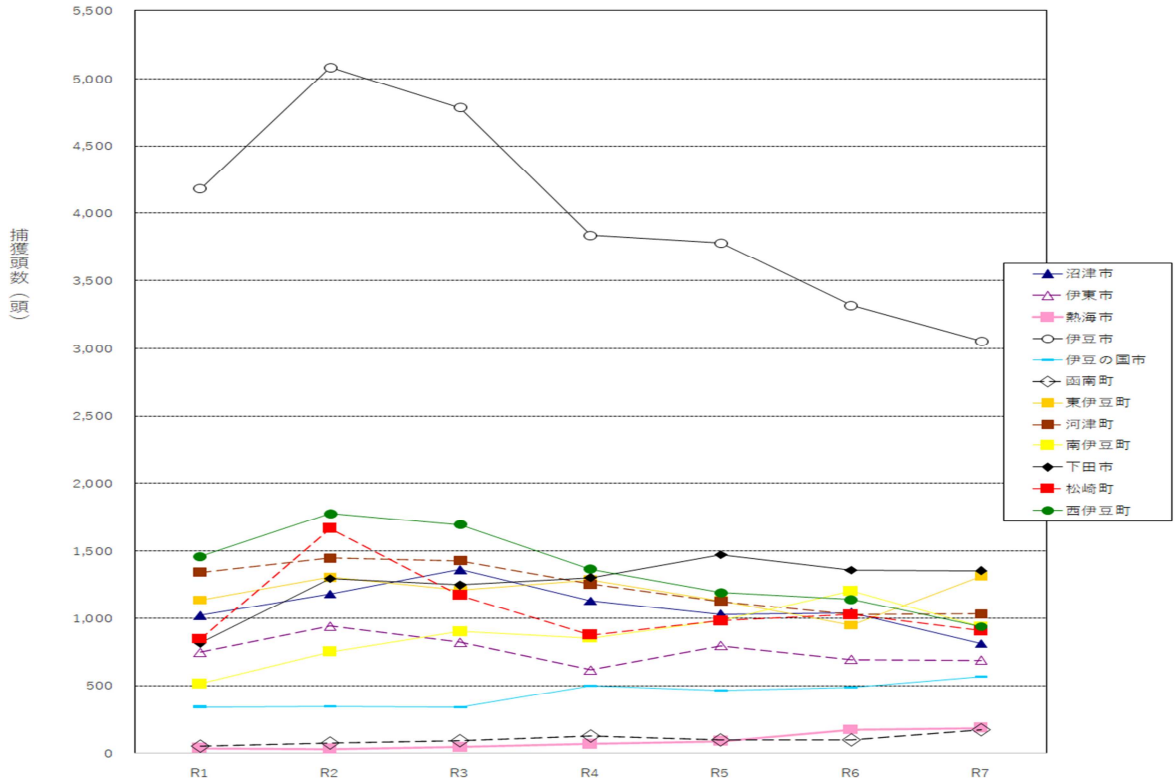
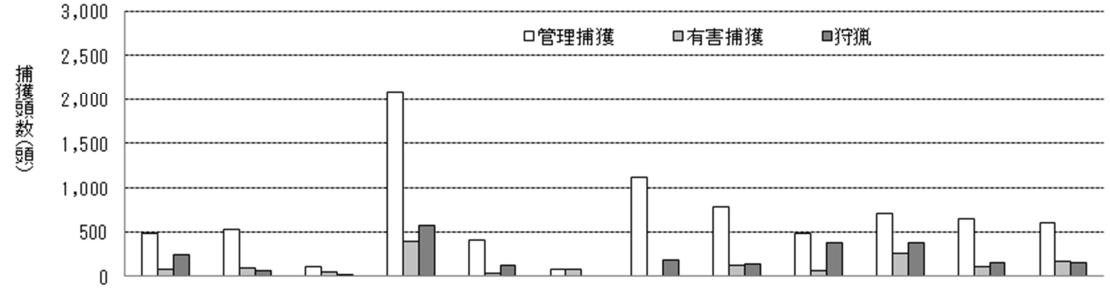


図２－３　伊豆地域 市町別捕獲頭数推移

（３）捕獲形態別捕獲結果

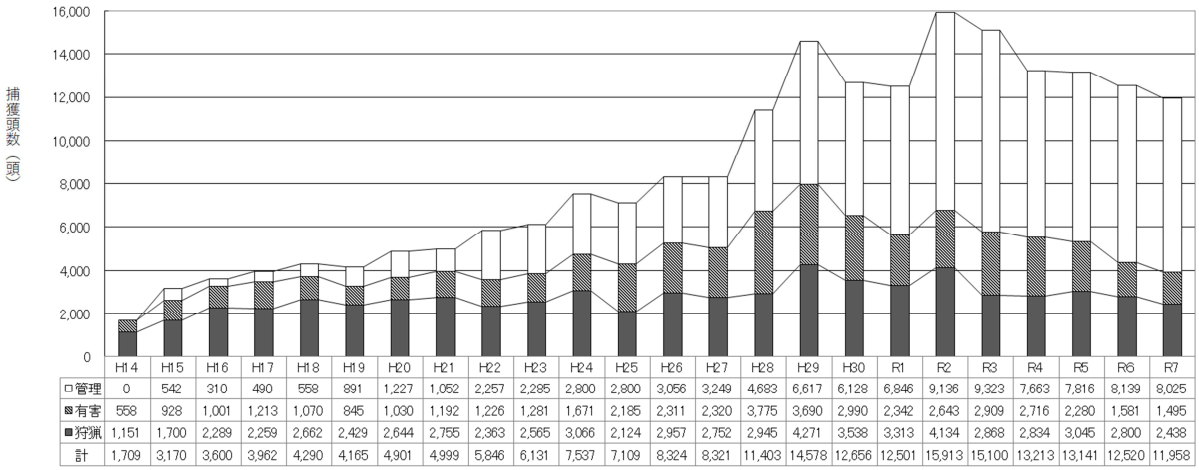
・管理捕獲は前年度から 114 頭減少して 8,025 頭であったが、捕獲全体からみた割合は 67%であった（前年度と同率）。被害防止目的の捕獲（有害捕獲）は前年度から 116 頭減少して捕獲全体の 13%（前年度比 2 ポイント増）、狩猟による捕獲は前年度から 231 頭減少して捕獲全体の 20%（前年度比 2 ポイント減）となった。管理捕獲の頭数が減少したのは、予算の都合上、捕獲困難地以外の管理捕獲を予定より早い２月 11 日で終了させた影響が大きいと思われる（図２－４、２－５）。

・月別で比較すると、管理捕獲は 6 月及び 11 月をピークとして捕獲頭数が多かった。（図２－６）。



区分	沼津市	伊東市	熱海市	伊豆市	伊豆の国市	函南町	東伊豆町	河津町	南伊豆町	下田市	松崎町	西伊豆町	計
管理捕獲	482	522	117	2,092	402	85	1,120	774	477	706	642	606	8,025（67%）
有害捕獲	85	101	50	392	36	81	11	122	72	264	106	175	1,495（13%）
狩猟	245	65	20	570	126	10	184	135	385	384	159	155	2,438（20%）
計	812	688	187	3,054	564	176	1,315	1,031	934	1,354	907	936	11,958（100%）

図２－４　伊豆地域 捕獲形態別 捕獲頭数（市町別）



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
□管理	0	542	310	490	558	891	1,227	1,052	2,257	2,285	2,800	2,800	3,056	3,249	4,683	6,617	6,128	6,946	9,136	9,323	7,663	7,816	8,139	8,025
▨有害	558	928	1,001	1,213	1,070	845	1,030	1,192	1,226	1,281	1,671	2,185	2,311	2,320	3,775	3,690	2,990	2,342	2,643	2,909	2,716	2,280	1,581	1,495
■狩猟	1,151	1,700	2,289	2,259	2,662	2,429	2,644	2,755	2,363	2,565	3,066	2,124	2,957	2,752	2,945	4,271	3,538	3,313	4,134	2,868	2,834	3,045	2,800	2,438
計	1,709	3,170	3,600	3,962	4,290	4,165	4,901	4,999	5,846	6,131	7,537	7,109	8,324	8,321	11,403	14,578	12,656	12,501	15,913	15,100	13,213	13,141	12,520	11,958

図２－５　伊豆地域 捕獲形態別 捕獲頭数の推移

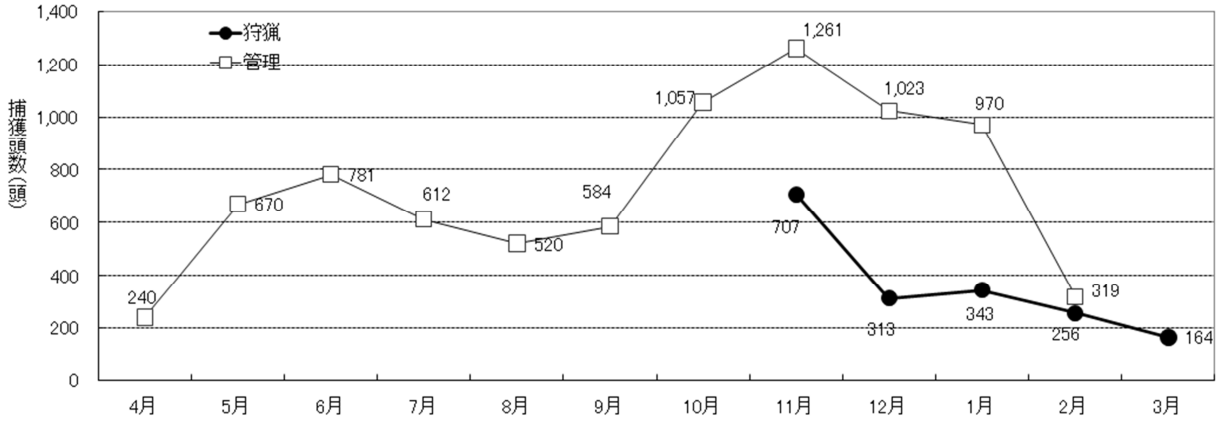


図２－６　伊豆地域 月別 捕獲形態別捕獲頭数

（４）猟具別捕獲結果

・捕獲におけるわなの割合は 82%で、前年度の 79%と比較し若干上昇した。管理ユニット別では、伊豆半島の東側に位置し、観光地や別荘地が多いなど銃が使用しにくい環境の多い、伊東市、熱海市及び函南町でわなの割合が高く、90%以上であった（表２－２）。

表２－２　猟具別 捕獲頭数

（単位：頭）

管理ユニット	狩猟				有害				管理捕獲				全体			
	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計
沼津市	115	130	0	245	0	85	0	85	84	398	0	482	199	613	0	812
伊東市	18	47	0	65	0	101	0	101	8	514	0	522	26	662	0	688
熱海市	8	12	0	20	0	50	0	50	0	117	0	117	8	179	0	187
伊豆市	363	207	0	570	17	374	1	392	195	1,897	0	2,092	575	2,478	1	3,054
伊豆の国市	54	72	0	126	1	35	0	36	87	315	0	402	142	422	0	564
函南町	1	9	0	10	2	79	0	81	0	85	0	85	3	173	0	176
東伊豆町	32	152	0	184	0	11	0	11	104	1,016	0	1,120	136	1,179	0	1,315
河津町	63	72	0	135	3	119	0	122	37	737	0	774	103	928	0	1,031
南伊豆町	119	266	0	385	0	72	0	72	69	408	0	477	188	746	0	934
下田市	147	237	0	384	6	239	19	264	268	438	0	706	421	914	19	1,354
松崎町	85	74	0	159	12	94	0	106	54	588	0	642	151	756	0	907
西伊豆町	113	42	0	155	38	131	6	175	67	539	0	606	218	712	6	936
計	1,118 (46%)	1,320 (54%)	0 (0%)	2,438	79 (5%)	1,390 (93%)	26 (2%)	1,495	973 (12%)	7,052 (88%)	0 (0%)	8,025	2,170 (18%)	9,762 (82%)	26 (0%)	11,958

２　生息密度調査結果

・令和７年度に、生息密度調査（糞粒法）を 83 地点で実施した結果、生息密度は、前年度から 7.3 頭/km^2 減少し 20.1 頭/km^{2}であった（図２－７）。

・依然として局所的に高密度な箇所がみられ、熱海市と伊豆の国市の市境や、河津町から南伊豆町にかけての町境などで高密度な状態となっている（図２－８）。

・約６割のメッシュで生息密度は低下したが、４割弱のメッシュでは増加した。うち２メッシュでは倍以上の増加がみられた（図２－９）。

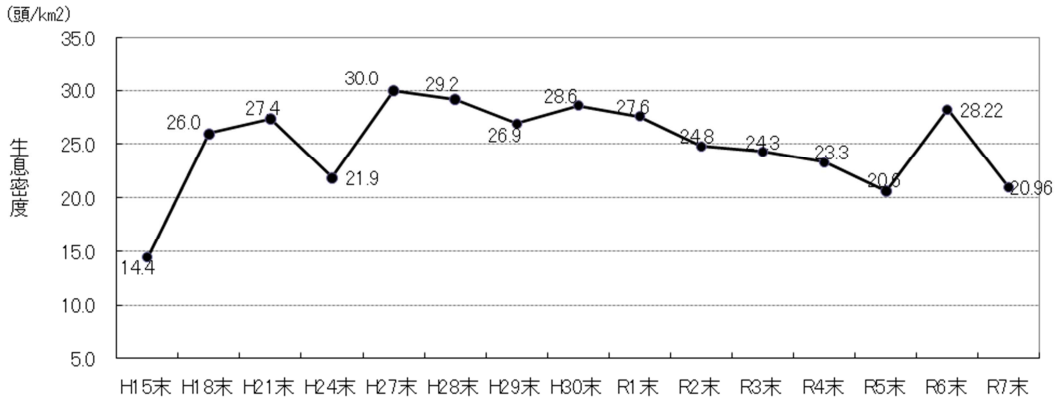


図２－７　伊豆地域 生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカ生息密度の推移

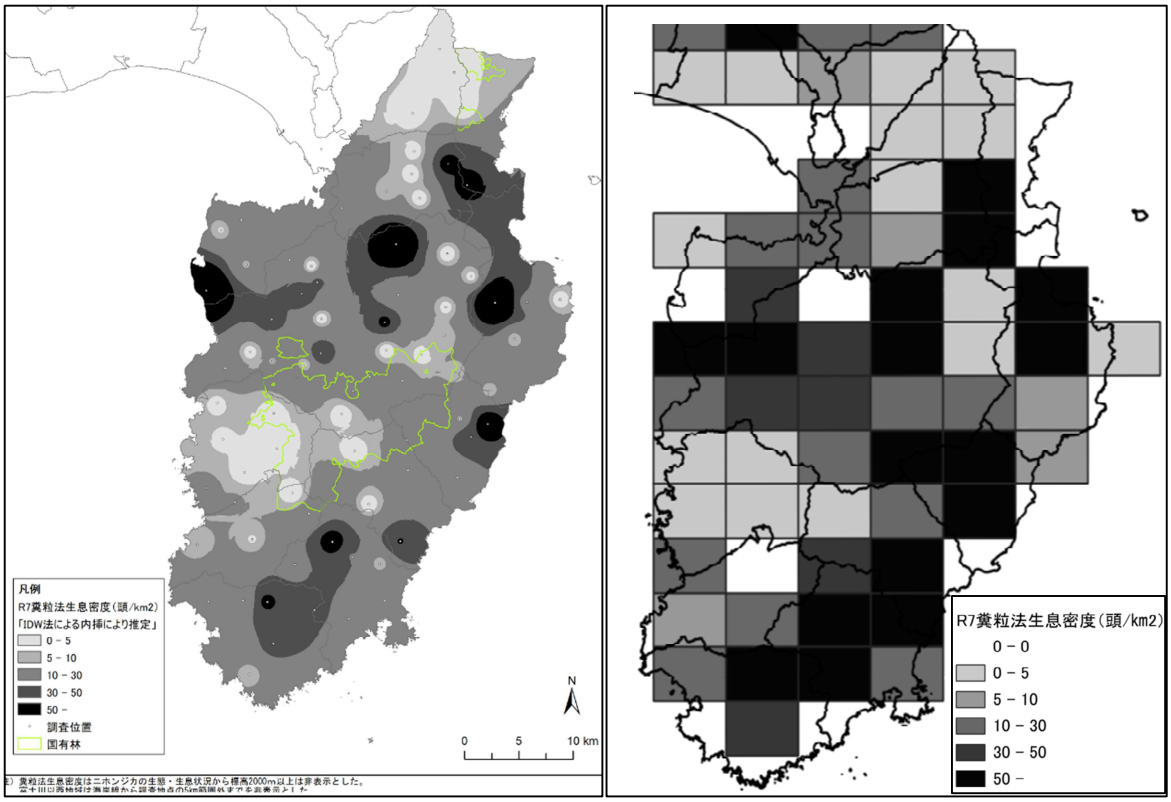


図２－８　生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカ生息密度分布図

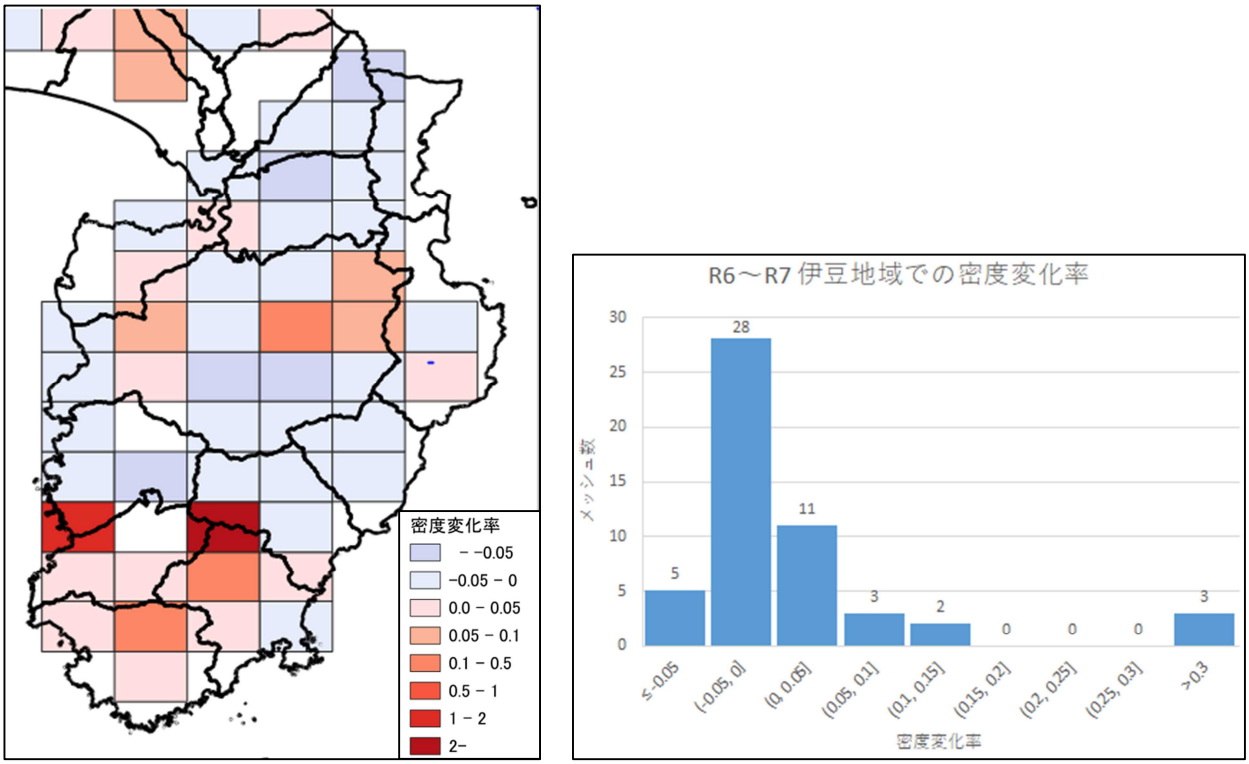
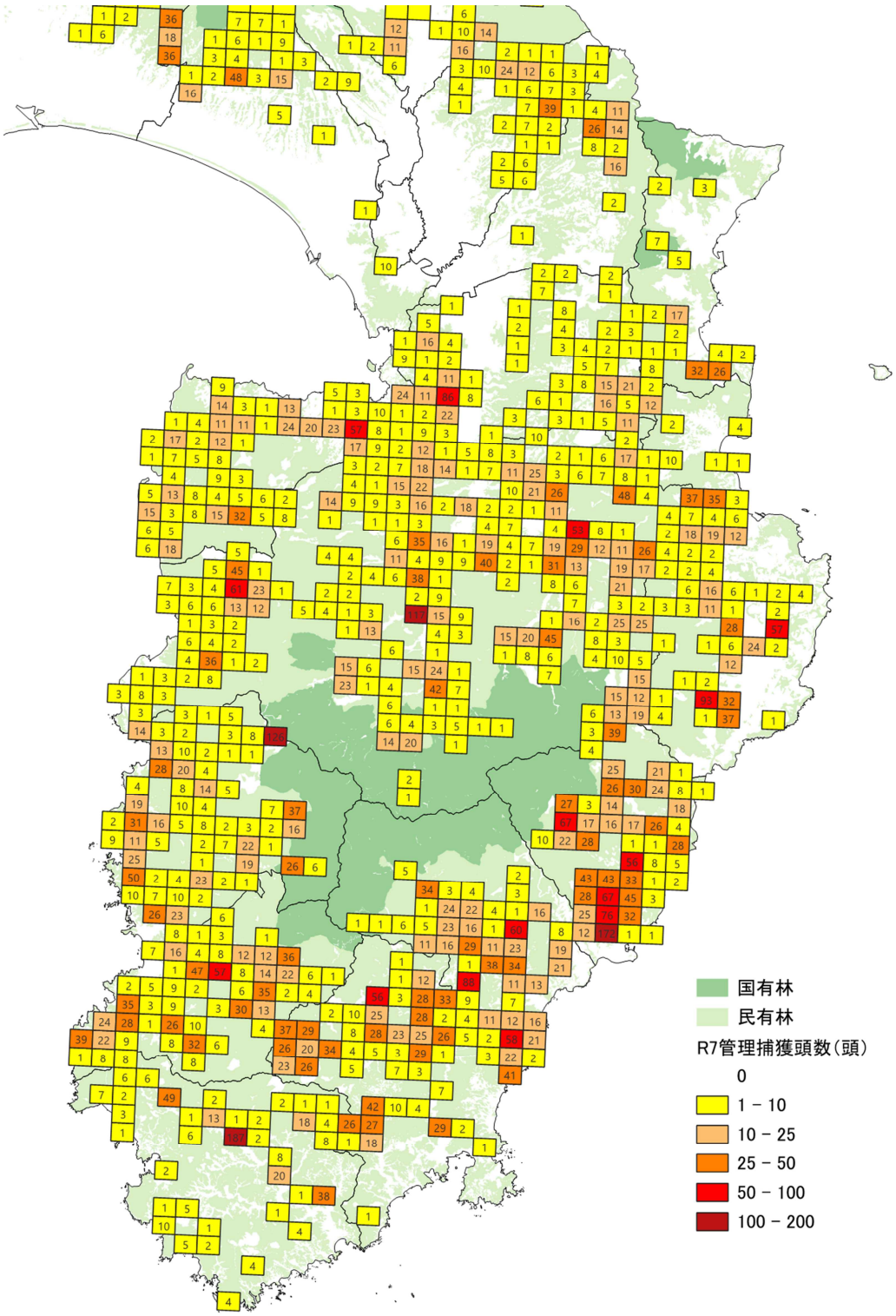


図２－９　令和６年度から７年度にかけてのニホンジカ生息密度変化率

３　管理捕獲の捕獲状況

（１）１km メッシュごとの捕獲状況

・東伊豆町の海沿い、松崎町と下田市の市境、西伊豆町や伊豆市、沼津市の生息密度の高い地域では管理捕獲による捕獲頭数も多い。しかし、熱海市及び伊東市の北側では、管理捕獲は実施しているものの生息密度が高い状況となっている。（図２－10）。



（注）メッシュ内の値は捕獲頭数を示す

図２－10　管理捕獲　１km メッシュ別捕獲頭数

（２）捕獲困難地における管理捕獲

・捕獲困難地での管理捕獲は、３地区において実施した。その結果、556 頭を捕獲し、目標とした 600 頭に対し 93%の捕獲であった（図２－11）。

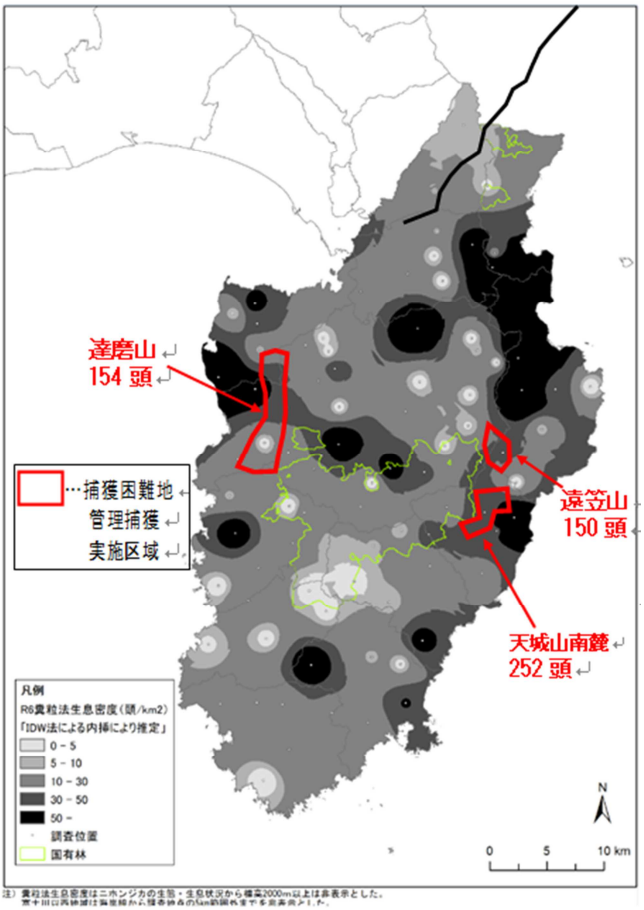


図２－11　令和７年度捕獲困難地管理捕獲の実績

※平成 29 年度から、生息密度が高いが急峻な地形や道路から遠い、又は土地所有者や管理者の同意が得られにくいなどの理由から、捕獲活動が低位な区域を捕獲困難地として捕獲重点区域にし、認定鳥獣捕獲等事業者による管理捕獲を実施している。

4　生態系への影響について

・令和６年度から７年度にかけ、主に落葉広葉樹林の自然林を対象に 39 地点において下層植生の調査を実施した（図２－12）。

・調査地の約５割が植被率 25%未満、約４割は植被率 50%以上であったが、不嗜好性植物の出現率は 90%と高かった（図２－12、図２－13）。また、採食痕や剥皮も多く確認された（図２－14）。

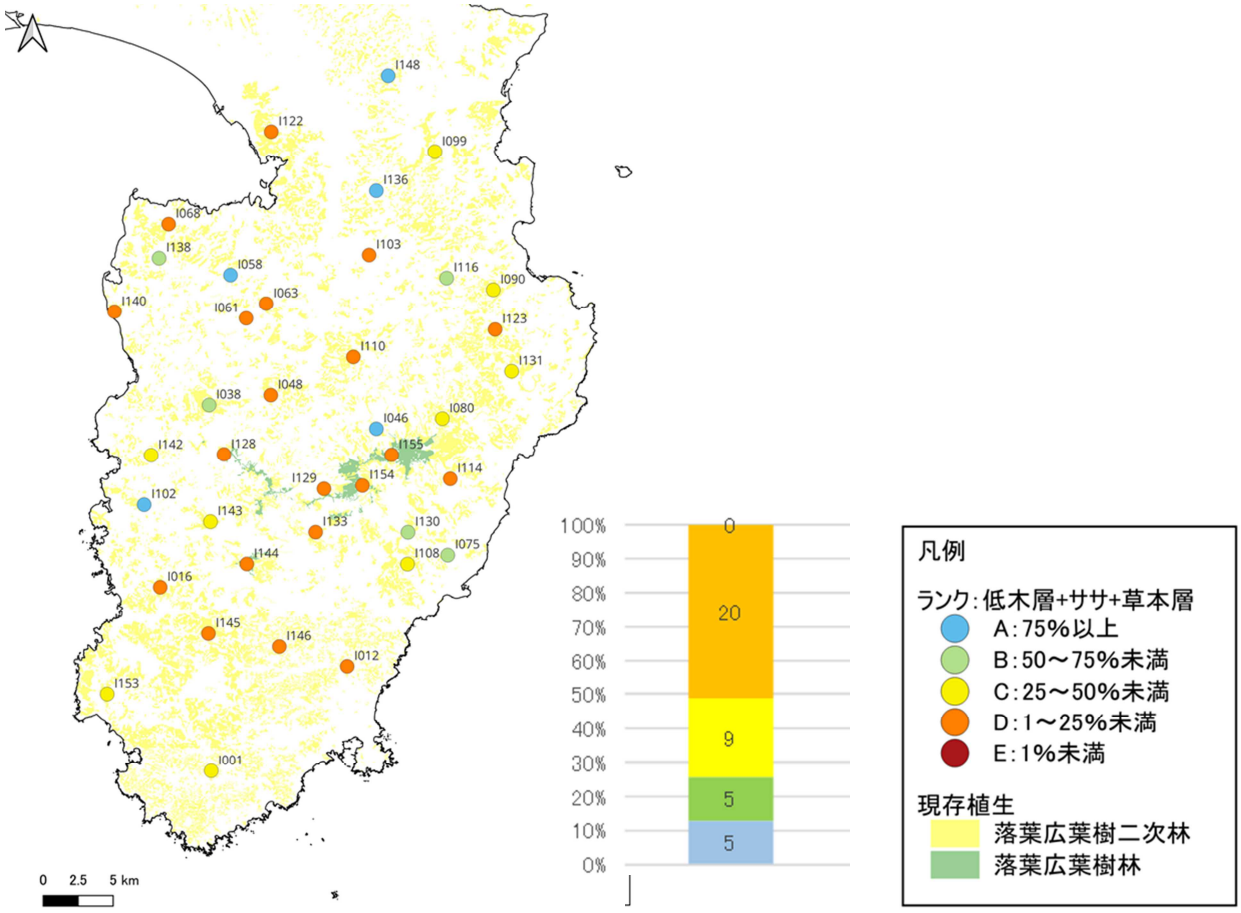


図２－12　下層植生植被ランク（低木層+ササ+草本層）と植被ランク別地点数

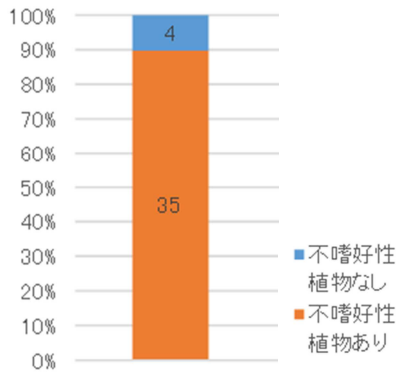


図２－13　不嗜好性植物の有無

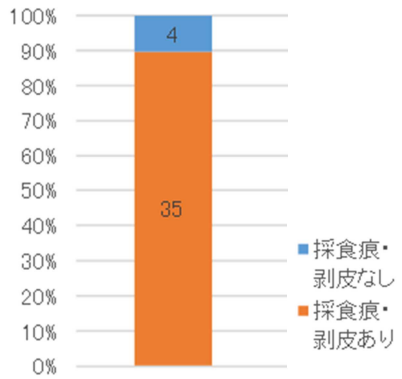


図２－14　採食痕・剥皮の有無

５　農作物被害及び防除対策

・令和７年度のニホンジカによる農作物被害額は、前年度に比べて増加し、27,855 千円であった。伊豆市の被害額が令和５年度から急増しているのは、令和６年度から調査方法が変更になったためと考えられる（表２－３）。また、被害面積は減少傾向となっており（表２－４）、被害量は横ばいとなっている（表２－５）。

・鳥獣被害集落アンケートは、令和７年度は未実施。参考に令和５年度の結果を添付する。なお、次回実施は令和８年度を予定している（図２－15）。

表２－３　ニホンジカによる市町別農作物被害額の推移

（単位：千円）

管理ユニット	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
沼津市	8,233	7,889	7,479	7,374	7,421	38,396
伊東市	355	807	703	597	476	2,938
熱海市	256	186	96	719	257	1,514
伊豆市	381	85	525	11,888	9,114	21,993
伊豆の国市	1,863	1,847	1,997	2,569	3,722	11,998
函南町	114	667	3	648	1,289	2,721
東伊豆町	1,000	152	268	0	1,000	2,420
河津町	308	483	182	29	3,322	4,324
南伊豆町	5,324	4,793	4,314	295	265	14,991
下田市	123	3,460	20	314	29	3,946
松崎町	340	1,417	435	1,209	270	3,671
西伊豆町	1,791	1,778	1,770	706	690	6,735
計	20,088	23,563	17,792	26,348	27,855	115,646

※ただし、沼津市については富士地域区域分を含む

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

表２－４　ニホンジカによる市町別農作物被害面積の推移

（単位：ａ）

管理ユニット	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
沼津市	274	256	245	244	244	1,263
伊東市	94	243	210	179	75	801
熱海市	85	34	51	151	124	445
伊豆市	69	31	57	383	320	860
伊豆の国市	36	61	163	53	36	349
函南町	6	4	0	21	94	125
東伊豆町	2,300	31	5	0	4	2,340
河津町	48	22	19	1	37	127
南伊豆町	2,161	1,946	1,751	19	11	5,888
下田市	114	235	11	24	4	388
松崎町	5	11	10	22	8	56
西伊豆町	183	170	185	8	11	557
計	5,375	3,043	2,707	1,105	968	13,199

※ただし、沼津市については富士地域区域分を含む

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

表２－５　ニホンジカによる市町別農作物被害量の推移

（単位：ｔ）

管理ユニット	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
沼津市	29.92	27.92	27.78	30.20	29.70	146
伊東市	2.38	5.69	4.94	4.20	1.52	19
熱海市	1.76	0.73	0.34	2.40	0.65	6
伊豆市	2.75	0.92	2.47	38.77	31.45	76
伊豆の国市	9.24	13.42	13.98	4.97	7.50	49
函南町	1.97	0.81	0.04	6.08	22.39	31
東伊豆町	2.18	0.46	2.50	0.00	0.20	5
河津町	1.99	0.23	0.06	0.05	0.41	3
南伊豆町	37.28	33.55	30.20	0.39	1.96	103
下田市	0.23	15.51	0.07	1.09	0.17	17
松崎町	0.50	1.37	1.19	3.28	1.10	7
西伊豆町	10.87	10.78	10.83	1.74	1.73	36
計	101.05	111.39	94.39	93.16	98.77	499

※ただし、沼津市については富士地域区域分を含む

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

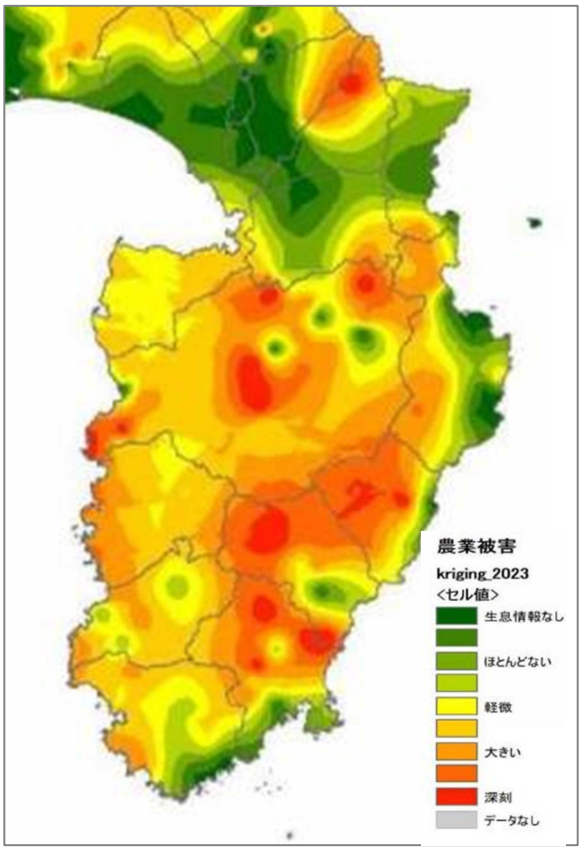
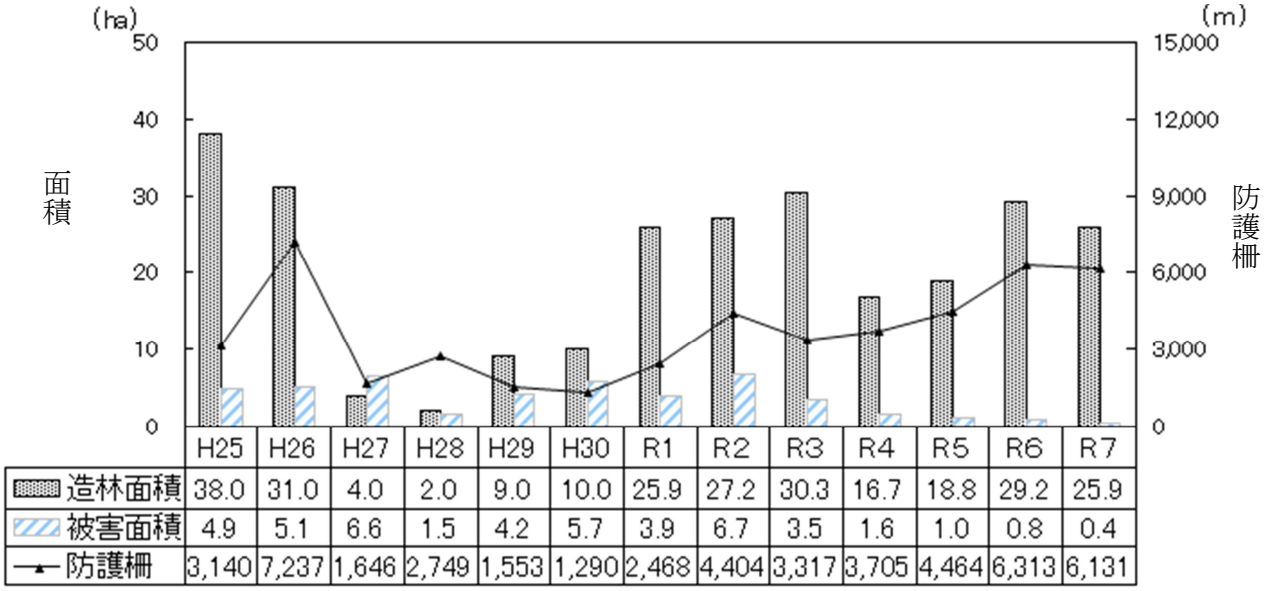


図２－15　令和５年度鳥獣被害集落アンケートによる農業被害の実態

６　林業被害及び防除対策

・民有林では、防護柵の延長の増加に伴い、令和７年度の被害は抑えられている（図２－16）。

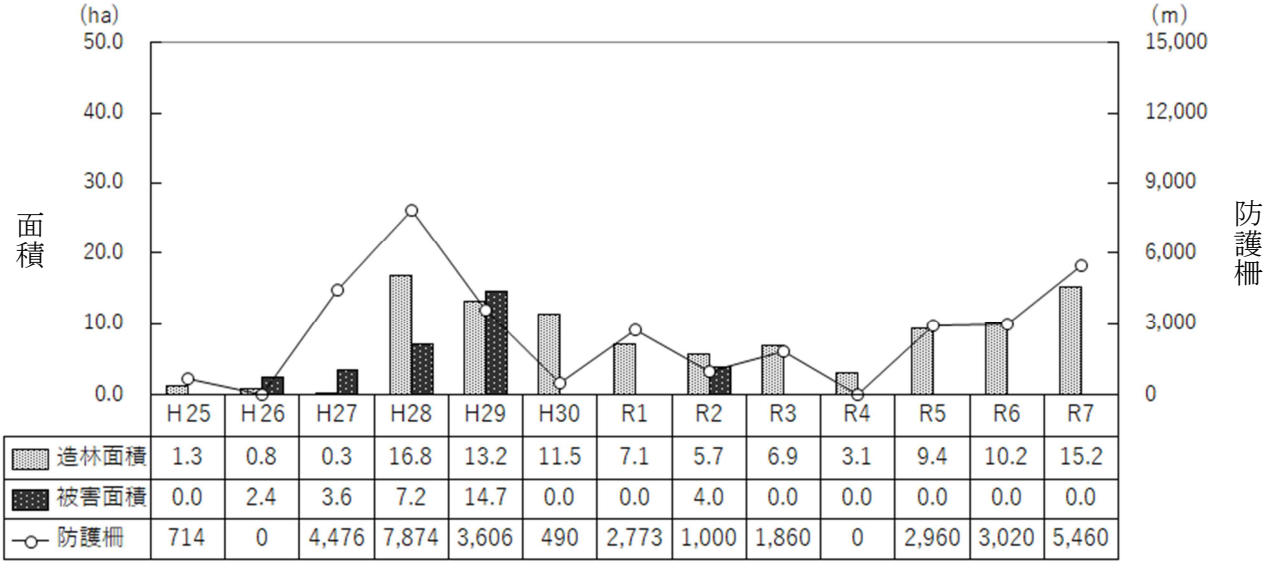
・国有林では、防護柵による防除に加え、平成 28 年度から森林管理事業の一環としての捕獲事業を開始しており、平成 30 年度以降は顕著な被害は確認されていない（図２－17）。



	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
造林面積	38.0	31.0	4.0	2.0	9.0	10.0	25.9	27.2	30.3	16.7	18.8	29.2	25.9
被害面積	4.9	5.1	6.6	1.5	4.2	5.7	3.9	6.7	3.5	1.6	1.0	0.8	0.4
防護柵	3,140	7,237	1,646	2,749	1,553	1,290	2,468	4,404	3,317	3,705	4,464	6,313	6,131

図２－16　民有林の造林面積と林業被害面積及び防護柵設置延長の推移

※　造林面積及び防護柵は、農林事務所毎の集計となっているため、東部農林事務所管内分は、伊豆地域で計上したことから、狩野川以北の東部農林事務所管内分が含まれている。また、被害面積は、市町別の集計であるため、沼津市を伊豆地域として取り扱ったことから、狩野川以北の沼津市分が含まれている。



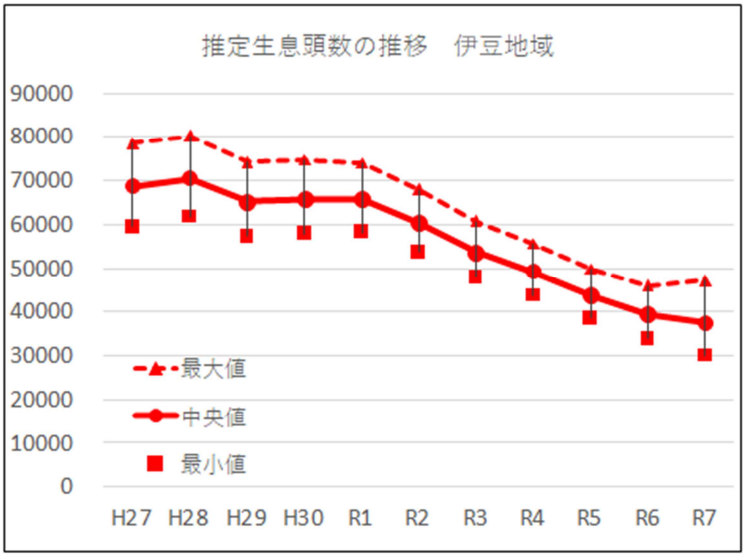
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
造林面積	1.3	0.8	0.3	16.8	13.2	11.5	7.1	5.7	6.9	3.1	9.4	10.2	15.2
被害面積	0.0	2.4	3.6	7.2	14.7	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
防護柵	714	0	4,476	7,874	3,606	490	2,773	1,000	1,860	0	2,960	3,020	5,460

図２－17　国有林の造林面積と林業被害面積及び防護柵設置延長の推移

7　推定生息頭数

・令和７年度の捕獲頭数に基づく階層ベイズ法（ハーベストベースドモデル）による推定生息頭数（中央値）は 37,500 頭となり、ピーク時の平成 28 年度の 53%となった（図２－18）。市町別でも、生息頭数の多かった伊豆市、西伊豆町等では、ピーク時に比べ５割以下となっている（表２－６）。

また、５km メッシュ別では、東伊豆町の南地域で生息頭数が特に多い。東伊豆町、河津町、下田市等、伊豆地域の南部では広く生息頭数が多くなっている（図２－19）。



年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
最大値	80,300	74,200	74,700	74,000	68,000	60,800	55,600	49,800	46,000	47,200
中央値	70,500	65,200	65,700	65,700	60,300	53,700	49,200	43,600	39,400	37,500
最小値	61,800	57,300	57,900	58,300	53,700	47,900	43,600	38,500	33,800	30,000

図２－18　推定生息頭数の推移

表２－６　市町別 推定生息頭数の推移（中央値）

（単位：頭）

市町	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
沼津市	5,626	6,535	6,664	6,869	7,030	6,900	6,281	5,495	4,628	4,052	3,793
伊東市	5,887	5,293	4,254	4,116	3,994	3,578	3,138	3,056	2,797	2,636	2,475
熱海市	40	38	39	41	51	60	83	81	72	55	57
伊豆市	21,983	22,684	20,767	21,030	20,606	18,333	15,329	13,630	11,645	10,645	10,609
伊豆の国市	1,619	2,065	2,196	2,294	2,281	2,362	2,452	2,340	2,262	2,248	2,051
函南町	184	194	247	297	342	391	418	442	484	560	506
東伊豆町	5,844	5,847	5,420	5,488	5,488	5,145	4,959	4,462	4,028	3,971	3,639
河津町	6,184	6,075	5,421	5,233	4,819	4,289	3,667	3,139	2,612	2,338	2,128
南伊豆町	2,464	3,114	3,204	3,094	3,358	3,569	3,437	3,369	3,136	2,427	2,271
下田市	5,585	5,799	5,718	5,771	6,209	6,049	5,676	5,390	4,908	4,391	3,833
松崎町	3,408	3,635	3,518	4,245	4,910	4,253	3,841	3,805	3,634	3,193	2,760
西伊豆町	12,030	11,769	10,365	9,722	9,233	7,949	6,790	5,805	4,900	4,024	3,707

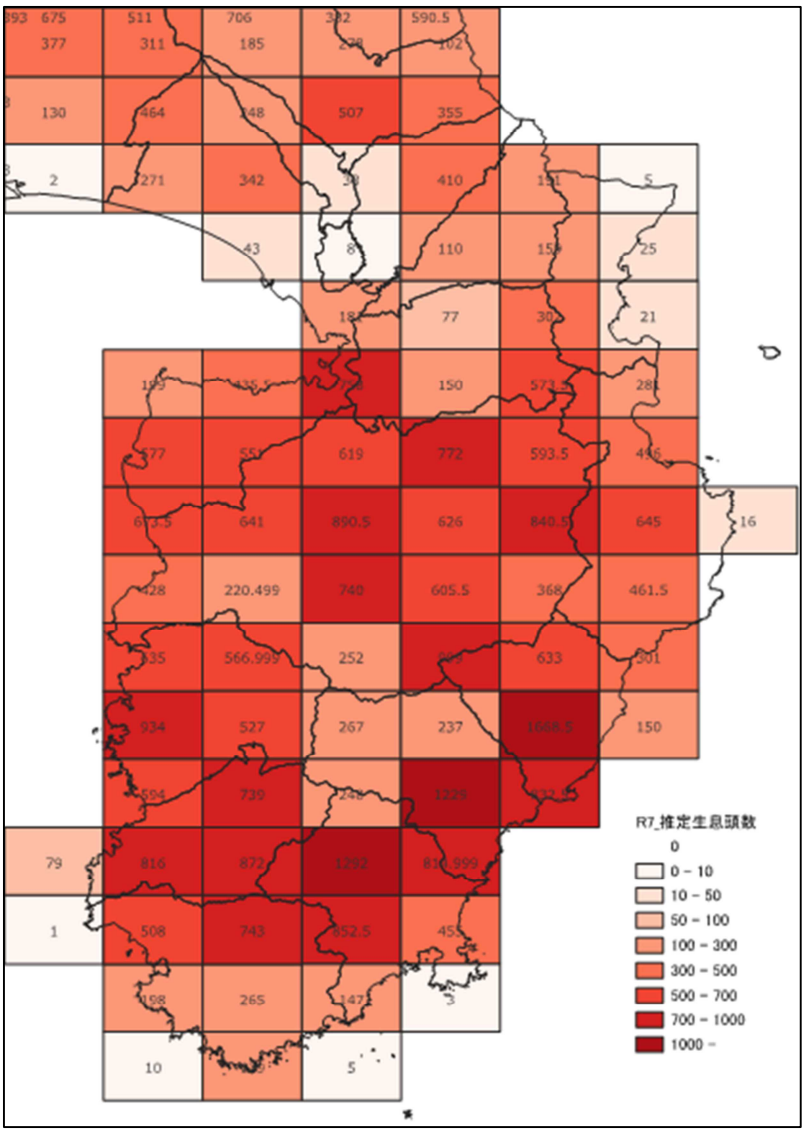


図２－19　５km メッシュ別　推定生息頭数（中央値）

８　伊豆地域の評価・課題

（１）評価

・伊豆地域における令和７年度の総捕獲頭数は 11,958 頭で、目標の 15,950 頭に対して 75%にとどまり、目標に達しなかった。これまで高い捕獲圧を掛け続けたことにより、ニホンジカの生息地の奥地化や、わなへの警戒心の高い「スレジカ」が増えたこと等により、捕獲が困難になっている。

・これまで捕獲が進まなかった遠笠山等の別荘地周辺や市町境を引き続き捕獲重点区域としたことで、捕獲を進めることができた。

・推定生息頭数は、ピーク時の平成 28 年度の 53%となり、着実に減少している。

（２）課題

・推定生息頭数は減少しているものの、依然として多い状態が続いているため、引き続き高い捕獲圧を掛ける必要がある。

第５　富士地域（富士地域個体群）

市町が立てる「被害防止計画」との整合性を図り、各市町と連携した対策を行うため、各市町の行政境をベースとした９ユニットに区分し、管理を行う（図３－１）。

〔管理ユニット（平成 31 年４月１日～）〕

沼津市	沼津市の一部（狩野川放水路以北）の区域
三島市	三島市の区域
裾野市	裾野市の区域
御殿場市	御殿場市の区域
富士市	富士市の一部（富士川以東）の区域
富士宮市	富士宮市の一部（富士川以東）の区域
清水町	駿東郡清水町の区域
長泉町	駿東郡長泉町の区域
小山町	駿東郡小山町の区域

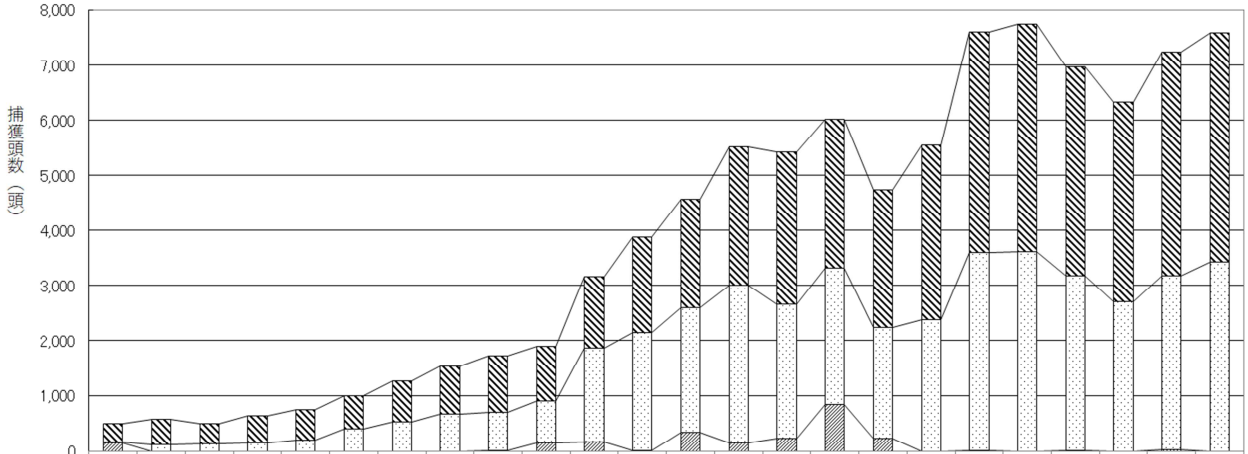


図３－１　富士地域管理ユニット

１　捕獲頭数

（１）雌雄別捕獲結果

・富士地域における令和７年度のニホンジカの総捕獲頭数は 7,587 頭（速報値）で、目標とする 7,650 頭の 99%であった。また、総捕獲頭数のうち、メスの割合は 44%であった（図３－２）。



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
▨オス	314	453	364	486	561	581	748	868	1,017	980	1,297	1,741	1,980	2,520	2,774	2,709	2,494	3,181	4,012	4,133	3,798	3,637	4,071	4,170
□メス	26	122	128	149	192	407	519	664	696	760	1,687	2,117	2,245	2,850	2,422	2,471	2,013	2,373	3,583	3,606	3,164	2,698	3,136	3,417
▨不明	147	0	0	0	0	0	0	0	2	148	168	17	344	152	233	846	224	0	12	0	12	0	32	0
合計	487	575	492	635	753	988	1,267	1,532	1,715	1,888	3,152	3,875	4,569	5,522	5,429	6,026	4,731	5,554	7,607	7,739	6,974	6,335	7,239	7,587

図３－２　富士地域におけるニホンジカ捕獲頭数の推移（雌雄別）

（２）管理ユニット別捕獲結果

・半数以上の管理ユニットで、前年度と比べて捕獲頭数が増加したがおおむね横ばいである。特に捕獲個体数の多い富士宮市では、２年連続で捕獲頭数の増加が続いている（表３－１、図３－３）。

表３－１　富士地域市町別捕獲状況

（単位：頭）

管理ユニット	主要な生息域の推定分布面積(㎢)	性別	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度(速報値)	
			実績	実績	実績	実績	実績	捕獲頭数/推定生息頭数
沼津市	27	オス	262	193	178	124	160	
		メス	327	273	232	195	211	
		不明	0	0	0	0	0	
		計	589	466	410	319	371 (13.7頭/k㎡) △	0.28
三島市	20	オス	137	169	208	181	137	
		メス	51	111	84	69	92	
		不明	0	0	0	5	0	
		計	188	280	292	255	229 (11.5頭/k㎡) ▽	0.50
裾野市	71	オス	455	443	316	436	449	
		メス	470	421	230	395	430	
		不明	0	11	0	27	0	
		計	925	875	546	858	879 (12.4頭/k㎡) △	0.29
御殿場市	24	オス	675	646	741	705	751	
		メス	469	445	556	515	541	
		不明	0	0	0	0	0	
		計	1,144	1,091	1,297	1,220	1,292 (53.8頭/k㎡) △	0.39
富士市	94	オス	544	442	386	462	472	
		メス	487	265	238	303	348	
		不明	0	0	0	0	0	
		計	1,031	707	624	765	820 (8.7頭/k㎡) △	0.47
富士宮市	196	オス	1,469	1,114	1,154	1,492	1,575	
		メス	1,220	915	795	1,135	1,241	
		不明	0	0	0	0	0	
		計	2,689	2,029	1,949	2,627	2,816 (14.4頭/k㎡) △	0.34
清水町	0	オス	1	3	0	2	8	
		メス	1	3	0	0	2	
		不明	0	0	0	0	0	
		計	2	6	0	2	10 (－頭/k㎡) ▲	－
長泉町	8	オス	23	66	33	97	43	
		メス	28	86	34	40	40	
		不明	0	1	0	0	0	
		計	51	153	67	137	83 (10.4頭/k㎡) ▼	－
小山町	54	オス	567	722	621	572	575	
		メス	553	645	529	484	512	
		不明	0	0	0	0	0	
		計	1,120	1,367	1,150	1,056	1,087 (20.1頭/k㎡) △	0.29
計	494	オス	4,133	3,164	3,637	4,071	4,170	
		メス	3,606	3,798	2,698	3,136	3,417	
		不明	0	12	0	32	0	
		計	7,739	6,974	6,335	7,239	7,587 (15.4頭/k㎡) △	0.33

（注）△は前年度と比較して数値が増加、▽は減少したことを示す。なお、２割以上の増減は黒塗りしている。

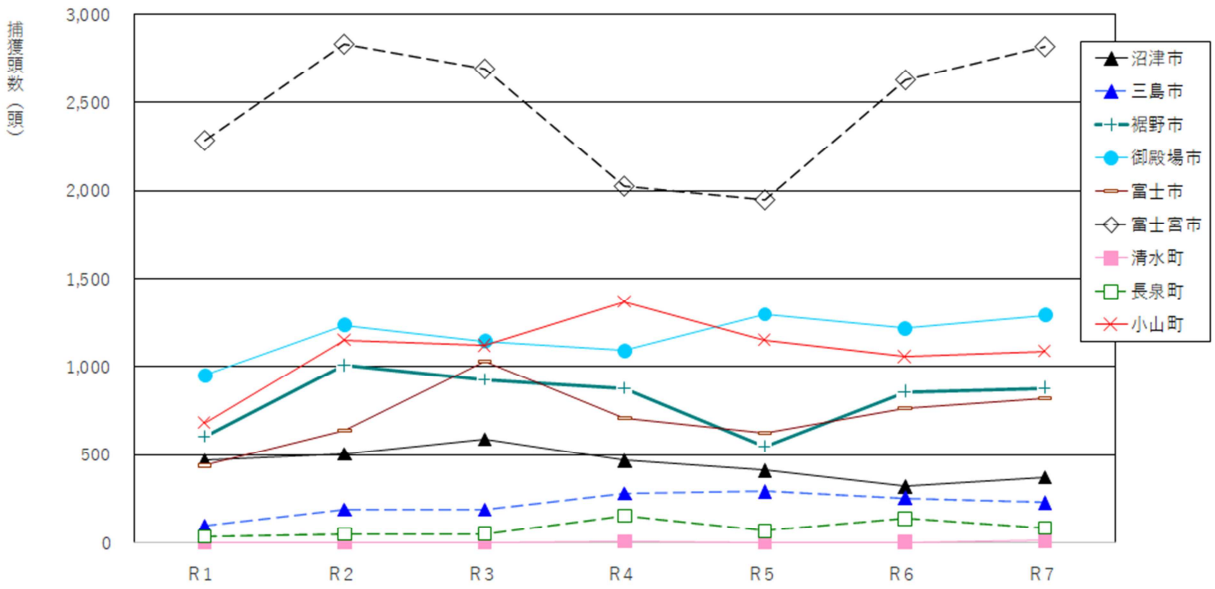
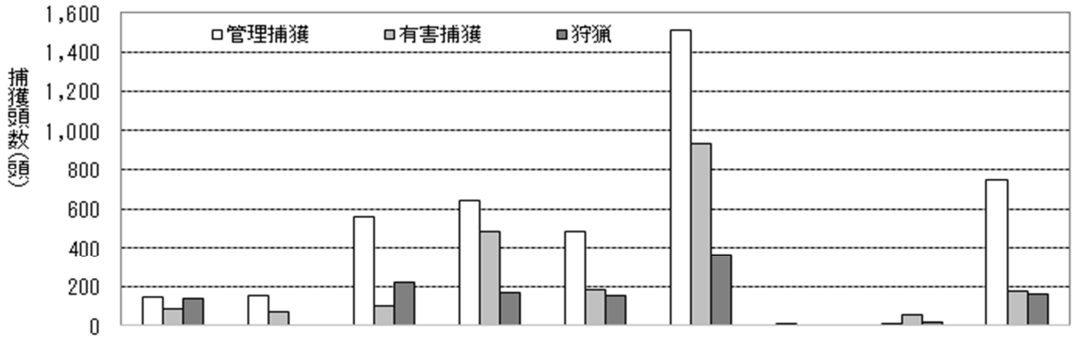


図３-３　富士地域 市町別捕獲頭数推移

（３）捕獲形態別捕獲結果

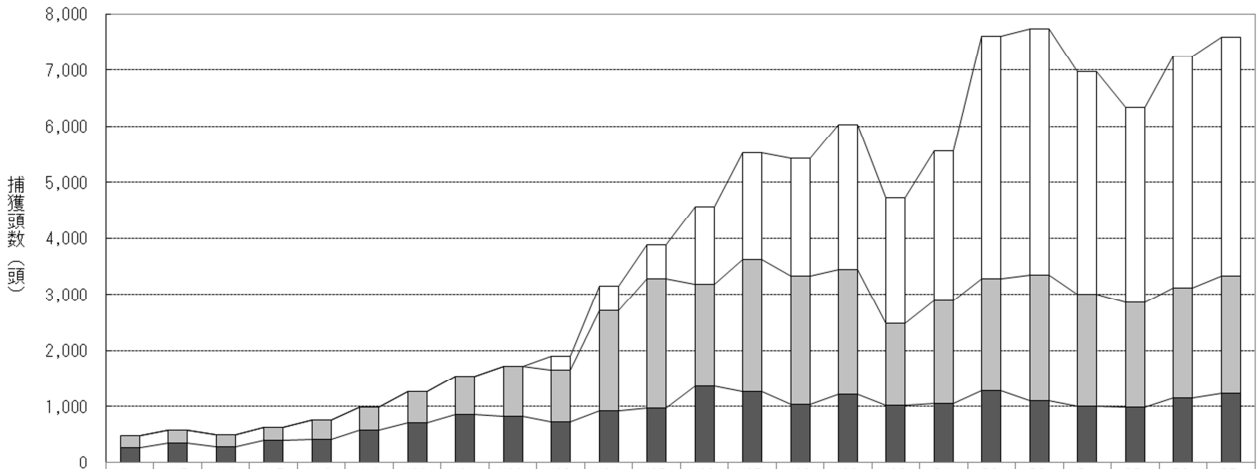
・管理捕獲は捕獲全体の 56%を占め、前年度から 138 頭増加して 4,259 頭だった。（図３－４、５）。捕獲困難地以外の管理捕獲は予定より早く終了させたものの、当初 300 頭を予定していた捕獲困難地（毛無山）で捕獲頭数が大幅に伸び、576 頭捕獲できたことが影響していると考えられる。

・月別で比較すると、管理捕獲は 6 月及び 11 月をピークとして捕獲頭数が多かった。（図３－６）。



区分	沼津市	三島市	裾野市	御殿場市	富士市	富士宮市	清水町	長泉町	小山町	計
管理捕獲	143	154	560	639	483	1,512	10	11	747	4,259
有害捕獲	87	71	101	484	185	938	0	52	176	2,094
狩猟	141	4	218	169	152	366	0	20	164	1,234
計	371	229	879	1,292	820	2,816	10	83	1,087	7,587

図３－４　富士地域 捕獲形態別 捕獲頭数（市町別）



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
□管理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	236	445	600	1,385	1,906	2,104	2,584	2,242	2,660	4,326	4,391	3,965	3,474	4,121	4,259
▨有害	210	226	209	236	338	403	563	683	899	922	1,784	2,305	1,817	2,350	2,285	2,229	1,476	1,837	2,011	2,246	2,000	1,877	1,977	2,094
■狩猟	277	349	283	399	415	585	704	849	816	730	923	970	1,367	1,266	1,040	1,213	1,013	1,057	1,270	1,102	1,009	984	1,141	1,234
計	487	575	492	635	753	988	1,267	1,532	1,715	1,888	3,152	3,875	4,569	5,522	5,429	6,026	4,731	5,554	7,607	7,739	6,974	6,335	7,239	7,587

図３－５　富士地域 捕獲形態別 捕獲頭数の推移

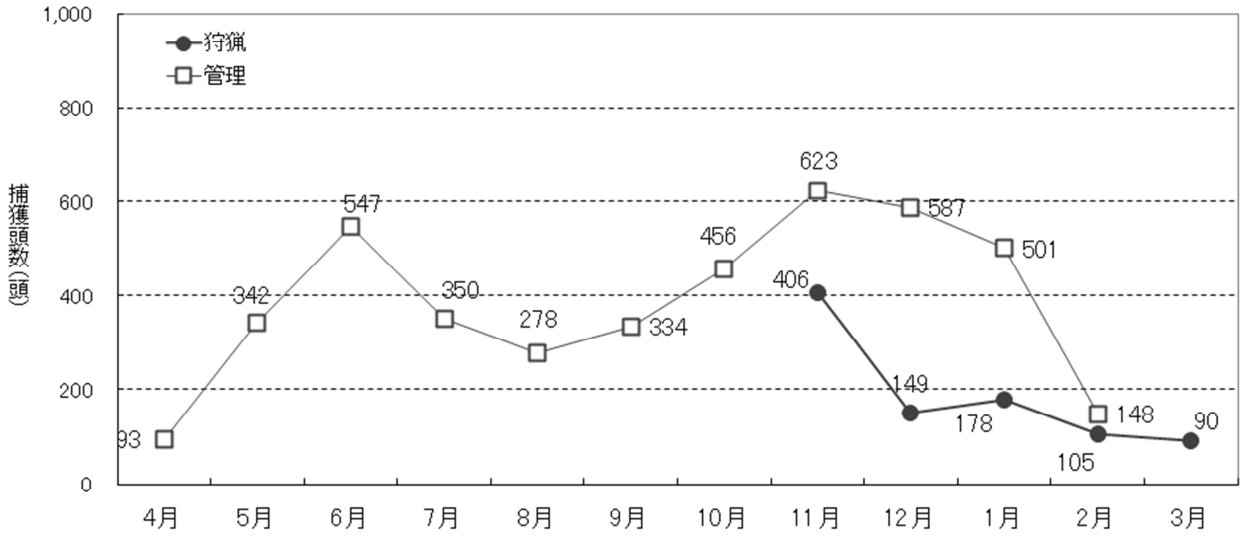


図３－６　富士地域 月別 捕獲形態別捕獲頭数
※有害は捕獲月ではなく、報告月で集計されているため、図３－６から除いた

（4）猟具別捕獲結果

・捕獲におけるわなの割合は82%で、79%だった前年度より上昇した。中でも管理捕獲におけるわなの割合は93%と高く、92%だった前年度よりさらに上昇した。（表３－２）。

表３－２　猟具別 捕獲頭数　（単位：頭）

管理ユニット	狩猟				有害				管理捕獲				全体			
	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計
沼津市	47	94	0	141	0	87	0	87	25	118	0	143	72	299	0	371
三島市	4	0	0	4	0	71	0	71	1	153	0	154	5	224	0	229
裾野市	97	121	0	218	39	42	20	101	130	430	0	560	266	593	20	879
御殿場市	20	149	0	169	94	390	0	484	2	637	0	639	116	1,176	0	1,292
富士市	33	115	4	152	3	182	0	185	64	419	0	483	100	716	4	820
富士宮市	135	224	7	366	251	687	0	938	26	1,486	0	1,512	412	2,397	7	2,816
清水町	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	10	0	0	10
長泉町	9	11	0	20	0	0	52	52	11	0	0	11	20	11	52	83
小山町	96	68	0	164	0	0	176	176	21	726	0	747	117	794	176	1,087
計	441 (36%)	782 (63%)	11 (1%)	1,234	387 (18%)	1,459 (70%)	248 (12%)	2,094	290 (7%)	3,969 (93%)	0 (0%)	4,259	1,118 (15%)	6,210 (82%)	259 (2%)	7,587

２　生息密度調査結果

・令和７年度に生息密度調査（糞粒法）を 70 地点で実施した結果、生息密度は前年度から 4.2 頭/km^2 減少して 19.1 頭/km^2 であった。なお、東富士演習場内の調査箇所を除いた生息密度は、18.3 頭/km^{2}である（図３－７）。東富士演習場の生息密度は、減少傾向にあるものの、依然として高い状態が続いている（図３－８）。

・依然として局所的に密度の高い箇所があり、特に山梨県に近い富士宮市人穴地区や東富士演習場内では、局所的に高密度な状態が続いている（図３－９）。

・令和６年度から令和７年度にかけての生息密度は６割近くのメッシュで減少したが、約１割のメッシュで 10%以上増加した。約５%のメッシュでは倍以上増加した（図３－10）。

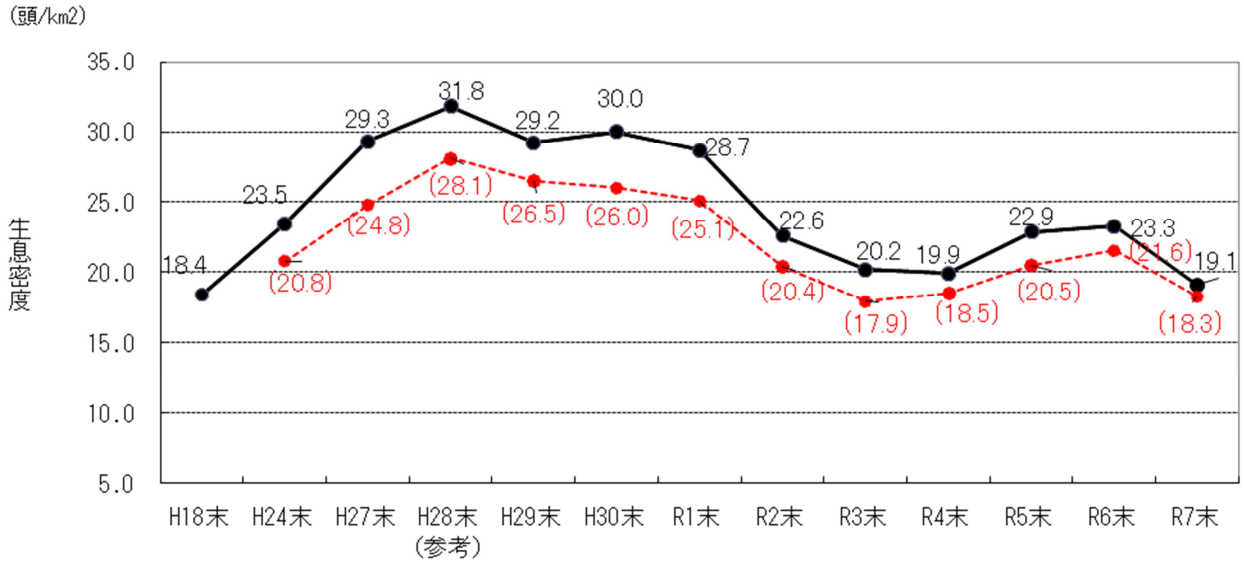


図３－７　富士地域 生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカ生息密度の推移

（注）図上、括弧内の数値は、東富士演習場内の調査箇所を除いた場合の値

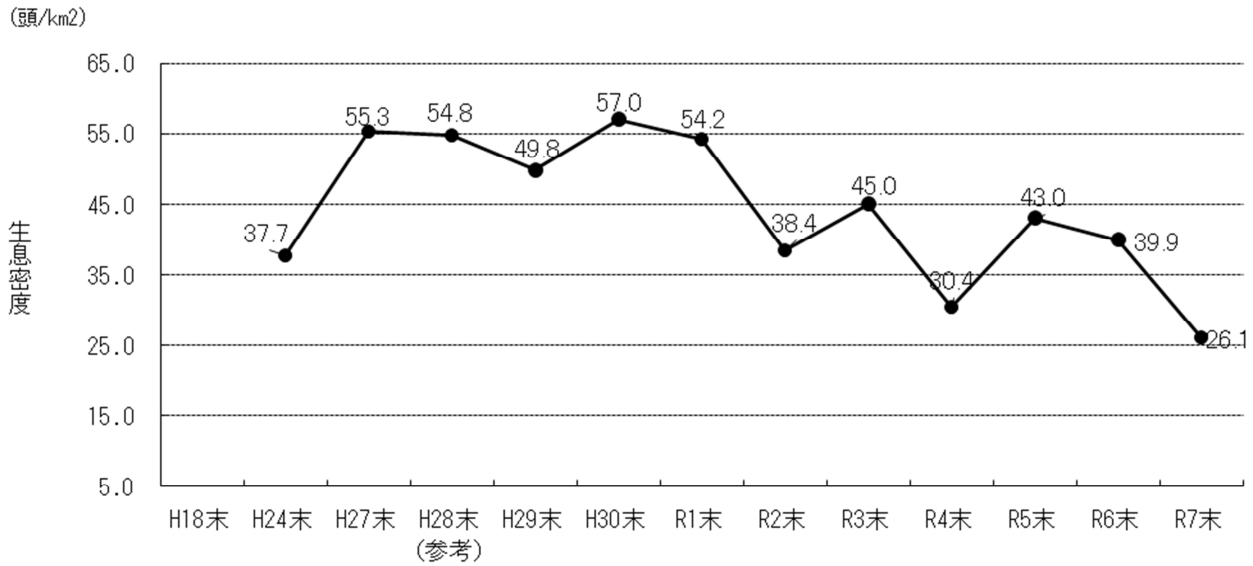


図３－８　東富士演習場 生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカ生息密度の推移

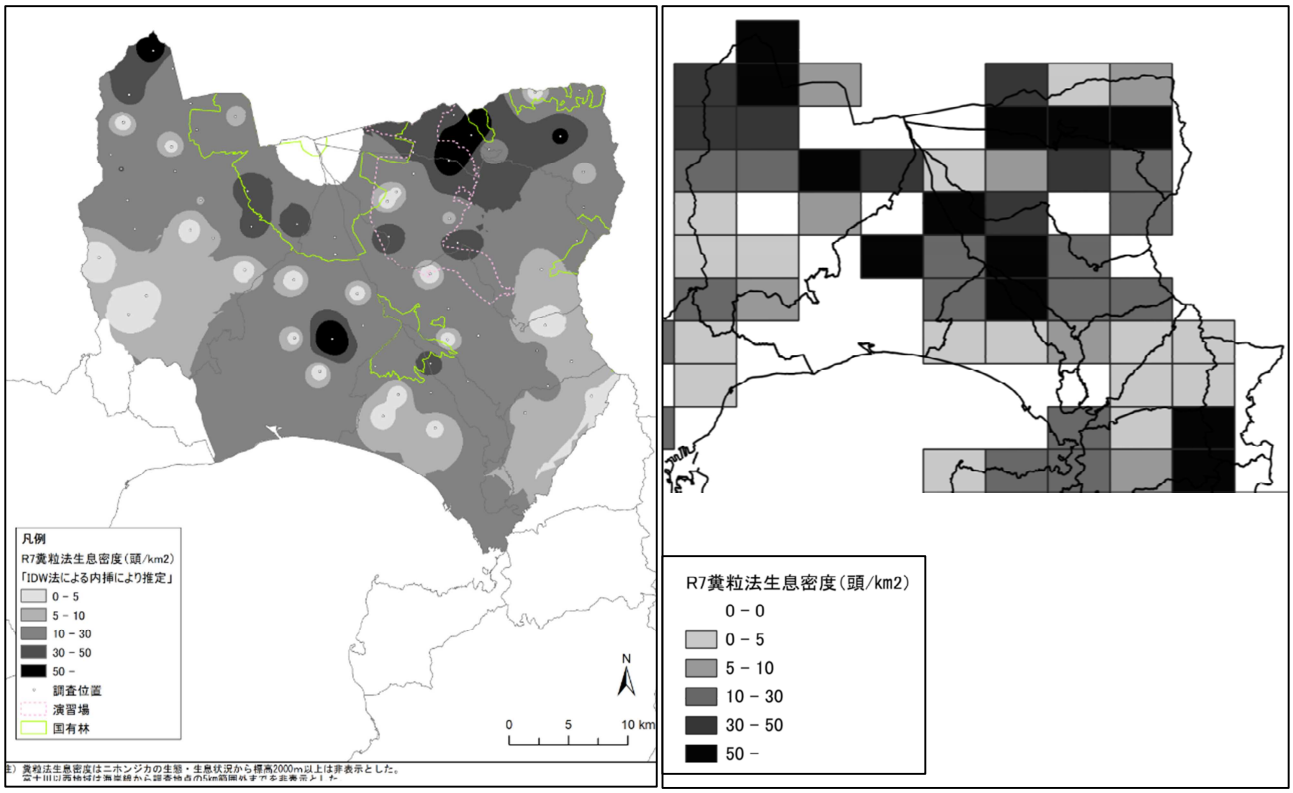


図３－９　生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカ生息密度分布図

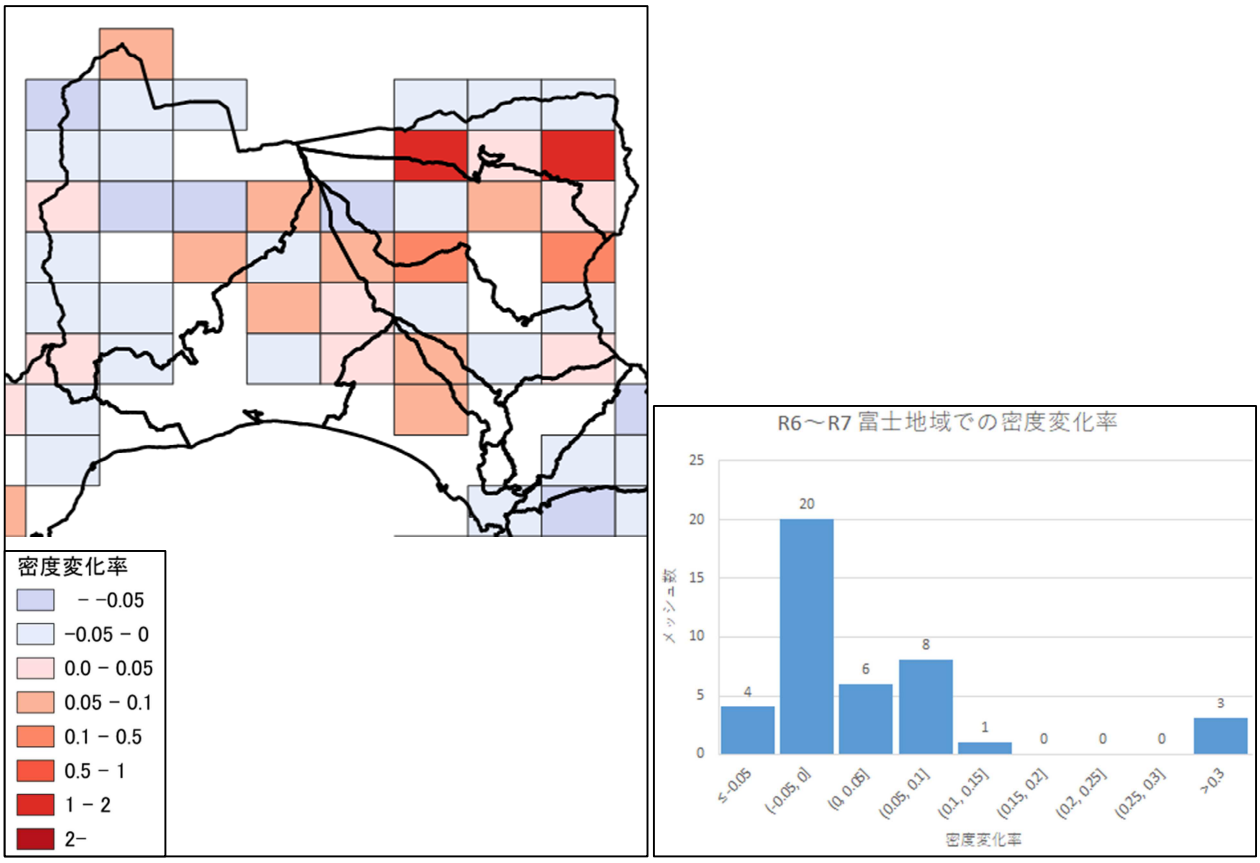
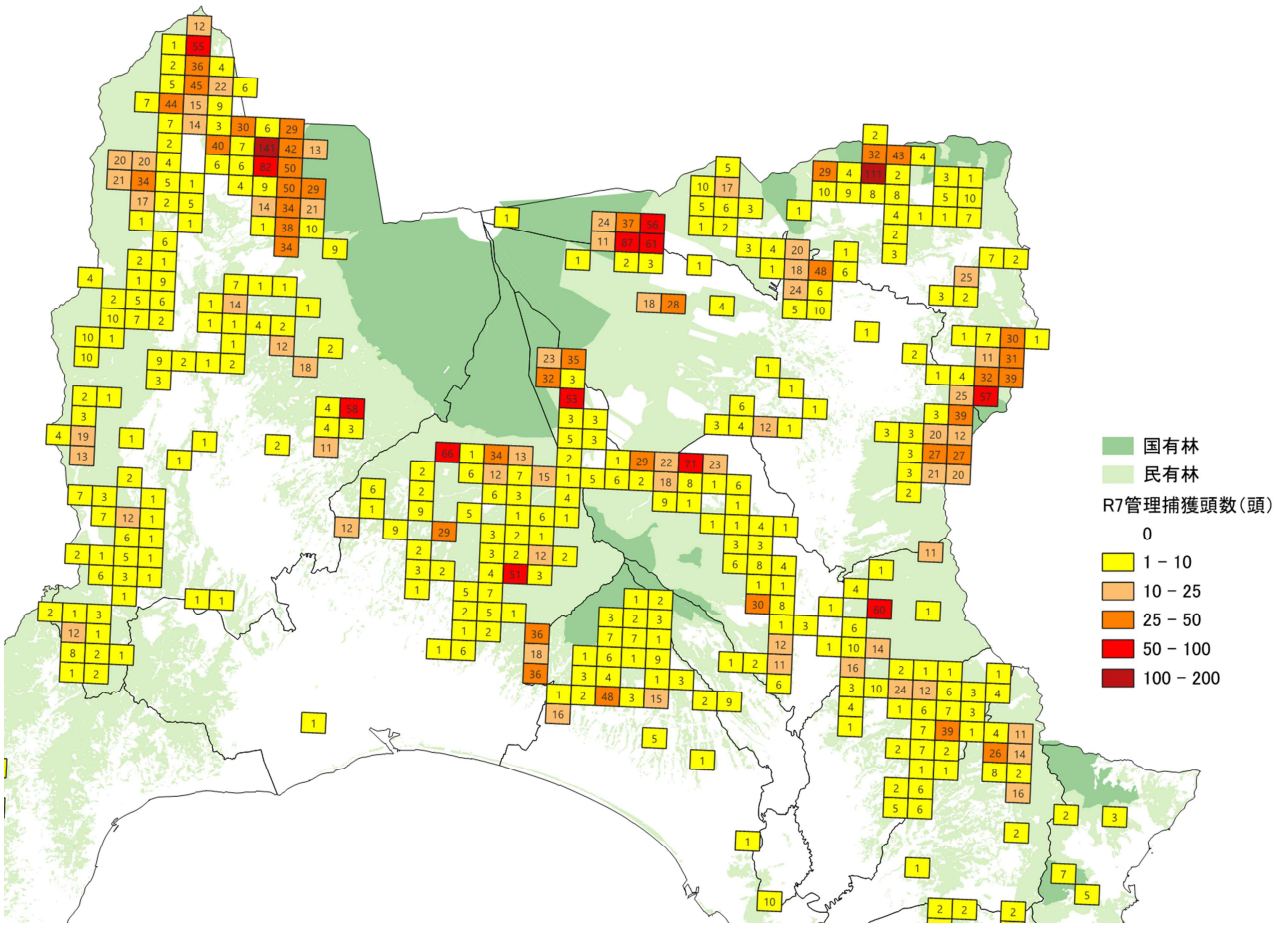


図３－10　令和６年度から７年度にかけてのニホンジカ生息密度変化率

３　管理捕獲の捕獲状況

（１） １km メッシュごとの捕獲状況

・小山町では、ポイント的に捕獲が進んでいる地域があることがわかった。東富士演習場の北側や東側、富士山西麓の山梨県境、富士山南麓～愛鷹山北麓では、広範囲に渡って捕獲が進んでいる地域が確認できた（図３－11）。



(注)メッシュ内の値は、捕獲頭数を示す

図３－11　管理捕獲　１km メッシュ別捕獲頭数

（２）捕獲困難地における管理捕獲

・捕獲困難地における管理捕獲は、４地区において実施した。その結果、1,401 頭を捕獲し、目標とした 1,450 頭に対し 97%の捕獲であった（図３－12）。

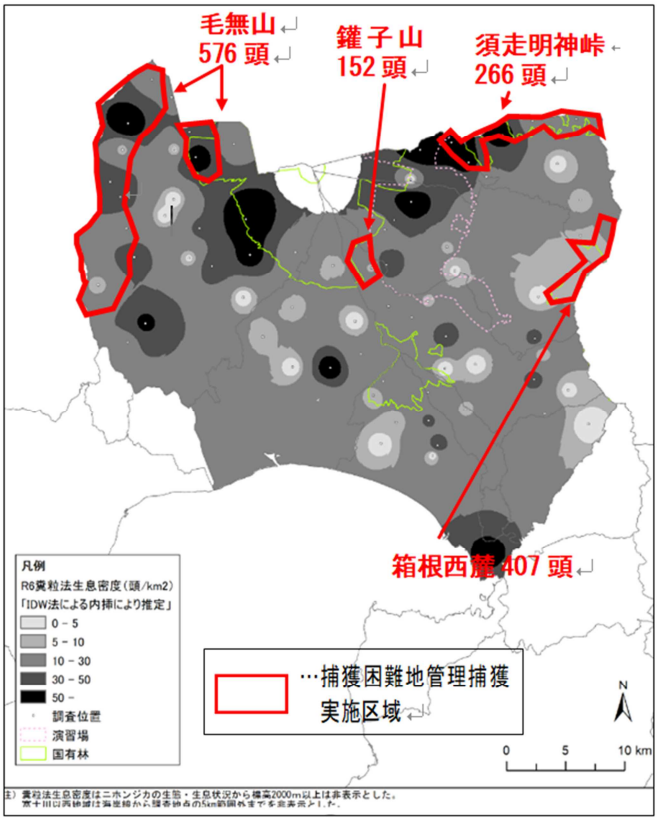


図３－12　令和７年度捕獲困難地管理捕獲の実績

５　生態系への影響について

・令和６年度から７年度にかけ、主に落葉広葉樹林の自然林を対象に 31 地点において下層植生の調査を実施した（図 3－13）。

・調査地の約３割が植被率 25%未満、約４割は植被率 50%以上であったが、不嗜好性植物の出現率は 80%以上と高かった（図３－13、３－14）。また、採食痕や剥皮も多く確認された（図３－15）。

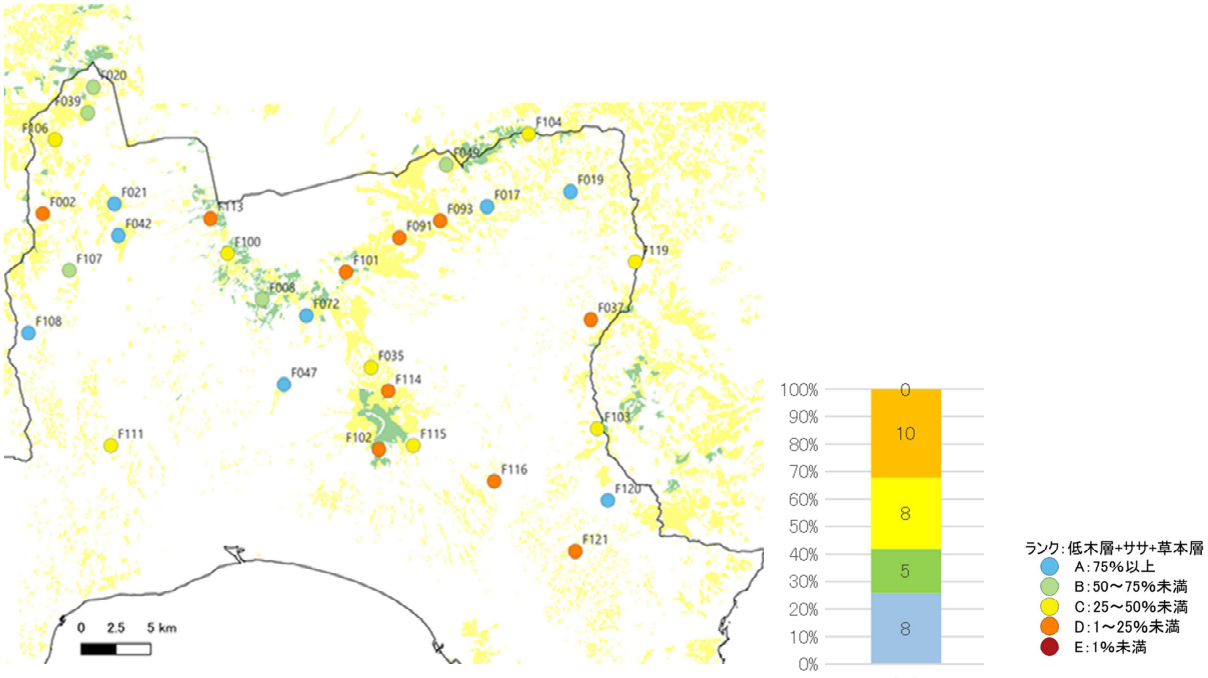


図３－13　下層植生植被ランク（低木層+ササ+草本層）と植被ランク別地点数

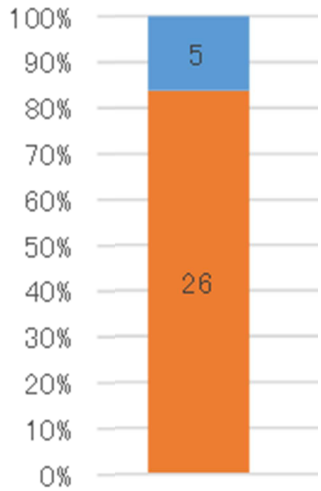


図３－14　不嗜好性植物の有無

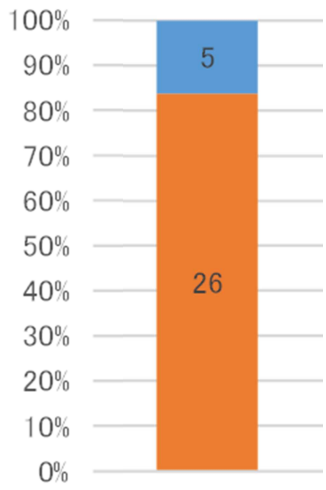


図３－15　採食痕・剥皮の有無

６　農作物被害及び防除対策

・令和７年度のニホンジカによる農作物被害額は、前年度に比べて増加し、26,441 千円であった。（表３－３）。被害額、被害面積、被害量いずれも富士宮市が突出して大きい（表３－３、表３－４、表３－５）。

・鳥獣被害集落アンケートは、令和７年度は未実施。参考に令和５年度の結果を添付する。なお、次回実施は令和８年度を予定している（図３－16）。

表３－３　ニホンジカによる市町別農作物被害額の推移

（単位：千円）

	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
沼津市	8,233	7,889	7,479	7,374	7,421	38,396
三島市	400	400	400	392	1,094	2,686
裾野市	425	756	690	624	480	2,975
御殿場市	3,566	2,833	2,955	4,455	5,090	18,899
富士市	442	532	673	718	870	3,235
富士宮市	3,520	4,062	4,553	4,300	6,096	22,531
清水町	6	1	10	1	8	26
長泉町	12	93	20	110	4	239
小山町	7,943	6,043	5,931	6,171	5,378	31,466
計	24,547	22,608	22,711	24,145	26,441	120,452

※ただし、沼津市については富士地域区域分を含む

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

表３－４　ニホンジカによる市町別農作物被害面積の推移

（単位：a）

	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
沼津市	274	256	245	244	244	1,263
三島市	40	50	50	49	92	281
裾野市	136	240	203	185	110	874
御殿場市	303	239	240	343	338	1,462
富士市	1,280	1,480	1,580	1,670	1,700	7,710
富士宮市	11,782	16,011	14,791	11,850	17,726	72,160
清水町	3	1	5	1	3	13
長泉町	1	5	2	5	1	14
小山町	475	326	331	376	330	1,838
計	14,294	18,608	17,447	14,723	20,544	85,616

※ただし、沼津市については富士地域区域分を含む

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

表３－５　ニホンジカによる市町別農作物被害量の推移

（単位：ｔ）

	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
沼津市	29.92	27.92	27.78	30.20	29.70	146
三島市	2.30	3.00	3.00	2.95	26.65	38
裾野市	0.87	1.71	1.40	1.71	1.26	7
御殿場市	16.65	12.41	13.98	18.37	18.12	80
富士市	0.18	0.23	0.70	0.74	0.82	3
富士宮市	1,236.00	1,400.12	1,546.27	1,240.56	1,858.68	7,282
清水町	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0
長泉町	0.05	0.37	0.09	0.52	0.10	1
小山町	114.16	35.77	29.31	39.17	24.24	243
計	1,400.14	1,481.53	1,622.54	1,334.21	1,959.56	7,798

※ただし、沼津市については富士地域区域分を含む

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

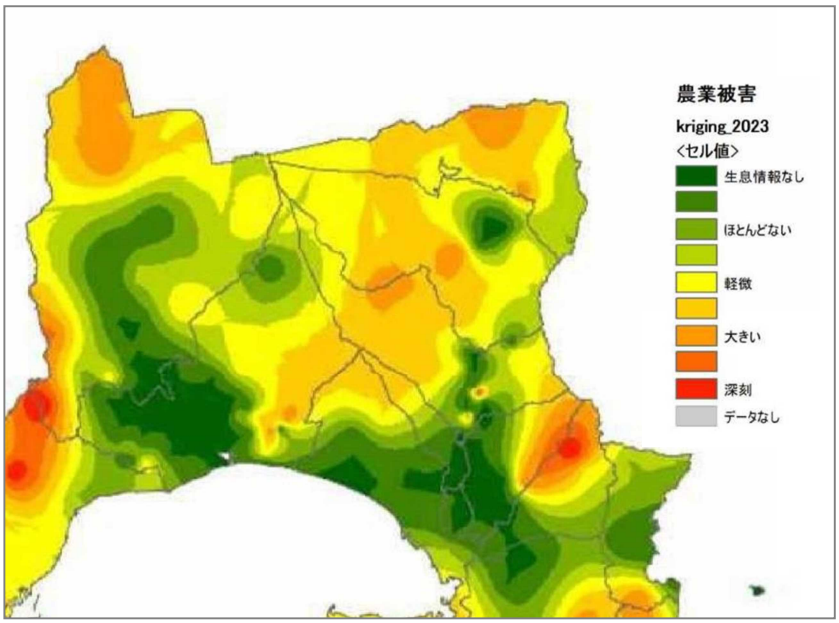
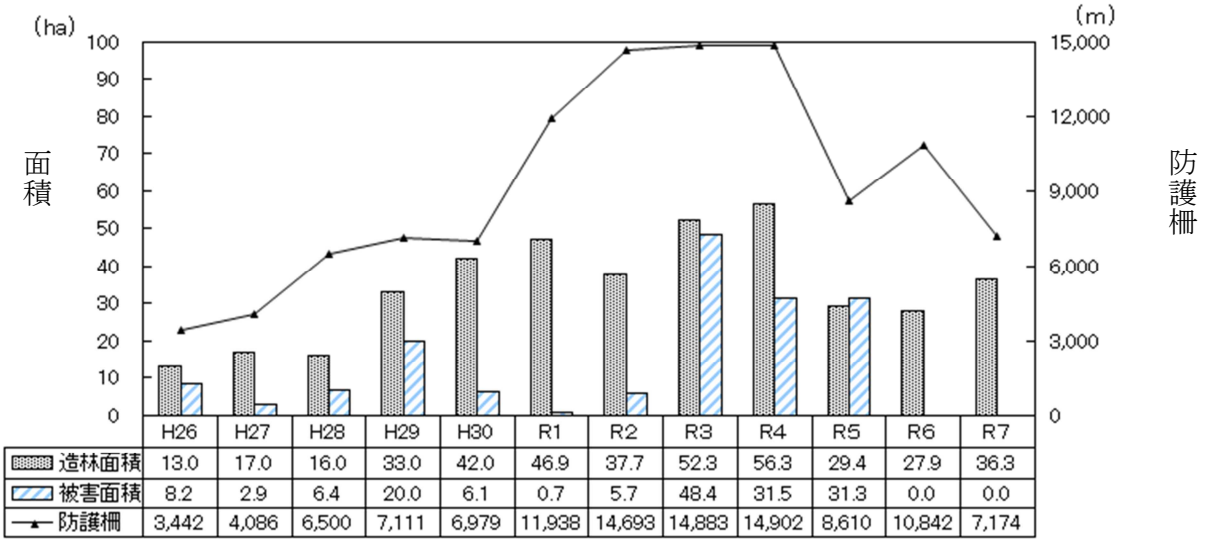


図３－16　令和５年度鳥獣被害集落アンケートによる農業被害の実態

６　林業被害及び防除対策

・民有林では、令和３年度に被害が上昇したが、令和６、７年度の被害面積は０であった（図３－17）。

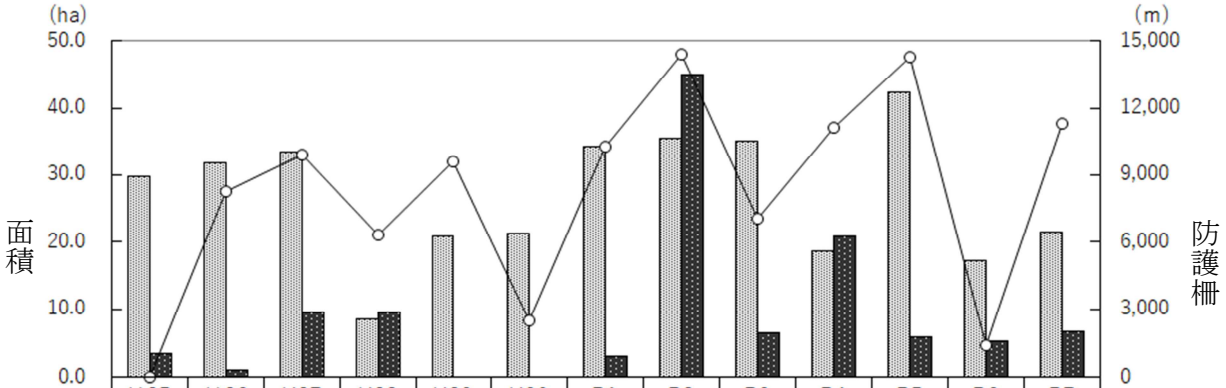
・国有林では、被害防除のための防護柵の設置や森林管理事業の一環としての捕獲事業が進んだことなどにより、顕著な被害は報告されていない。被害面積は、令和５年度に減少し、令和６、７年は横ばいであった（図３－18）。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
造林面積	13.0	17.0	16.0	33.0	42.0	46.9	37.7	52.3	56.3	29.4	27.9	36.3
被害面積	8.2	2.9	6.4	20.0	6.1	0.7	5.7	48.4	31.5	31.3	0.0	0.0
防護柵	3,442	4,086	6,500	7,111	6,979	11,938	14,693	14,883	14,902	8,610	10,842	7,174

図３－17　民有林の造林面積と林業被害面積及び防護柵設置延長の推移

※造林面積及び防護柵は、農林事務所毎の集計となっているため、東部農林事務所管内分は、伊豆地域で計上したことから、狩野川以北の東部農林事務所管内分が含まれていない。また、被害面積は、市町別の集計であるため、沼津市を伊豆地域として取り扱ったことから、狩野川以北の沼津市分が含まれていない。さらに、富士市と富士宮市を全て富士地域として取り扱ったため、富士川以西の富士市、富士宮市分が含まれている。



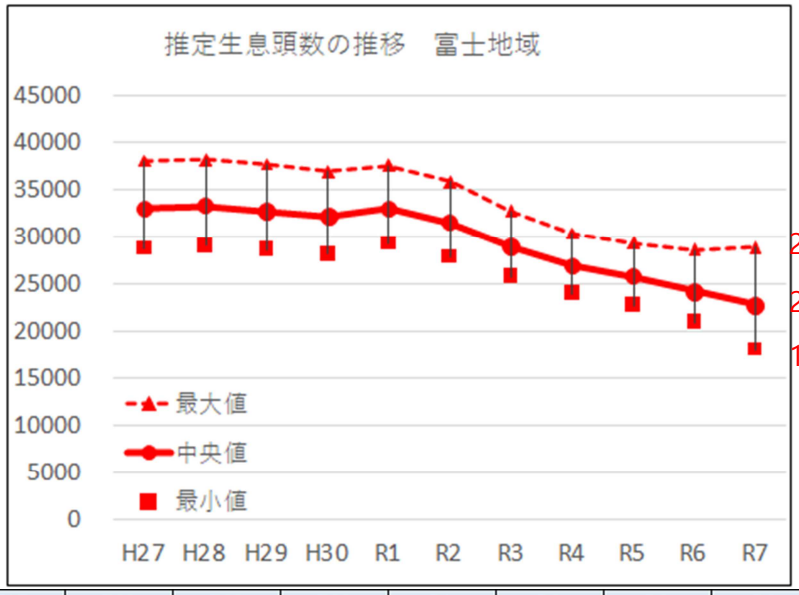
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
造林面積	29.9	31.7	33.5	8.5	21.0	21.2	34.2	35.5	35.0	18.7	42.4	17.3	21.5
被害面積	3.5	1.2	9.6	9.6	0.0	0.0	3.2	44.9	6.5	20.8	5.9	5.3	6.8
防護柵	0	8,260	9,915	6,334	9,630	2,537	10,27	14,379	7,030	11,144	14,287	1,435	11,282

図３－18　国有林の造林面積と林業被害面積及び防護柵設置延長の推移

7　推定生息頭数

・令和７年度の推定生息頭数は、中央値で 22,800 頭となり、ピーク時の平成 28 年度の 69%に減少している（図３－19）。市町別では、生息頭数の多かった富士宮市では、ピーク時の平成 27 年の 59%となった（表３－６）。

また、５km メッシュ別では、山梨県境の富士宮市の人穴地区で、生息頭数が特に多い（図３－20）。

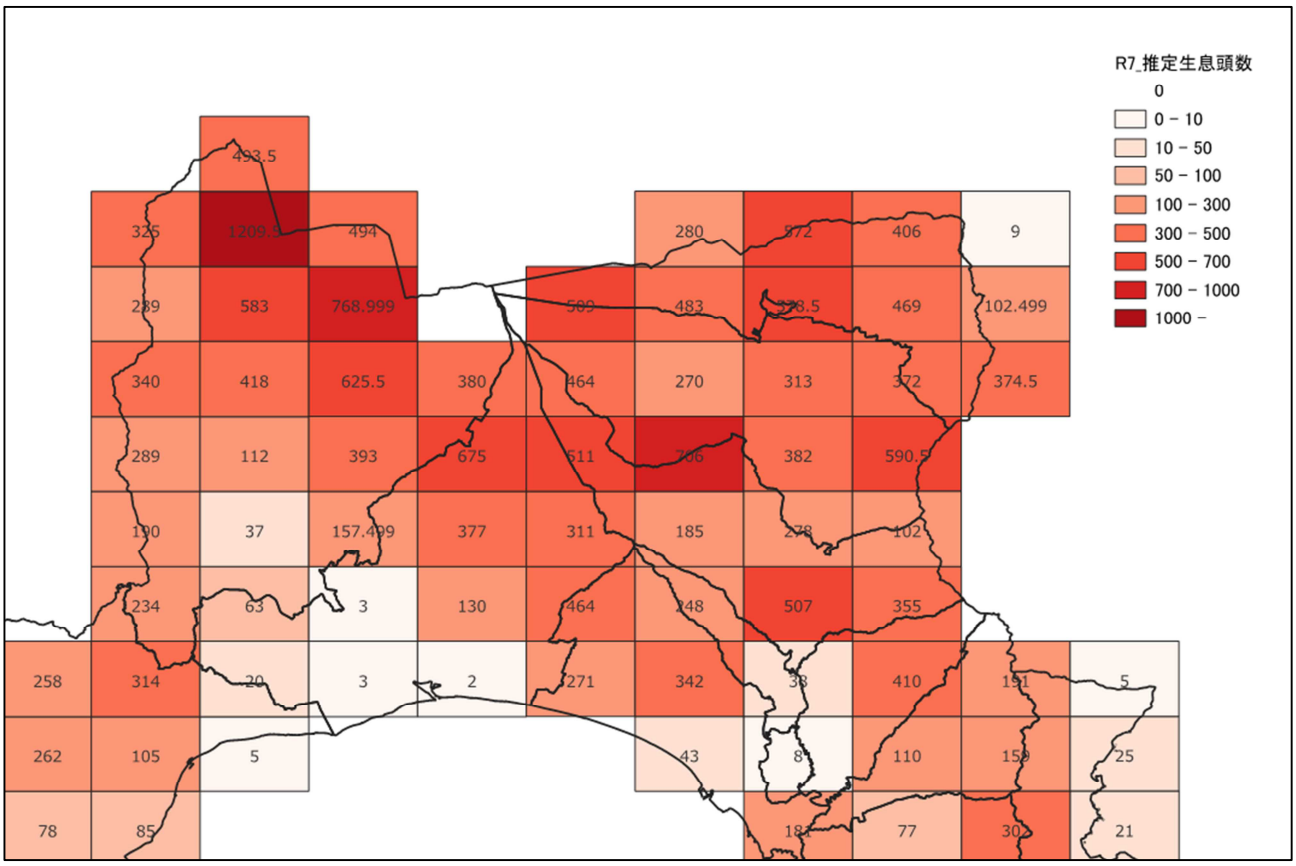


年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
最大値	38,000	38,100	37,600	36,900	37,500	35,800	32,700	30,300	29,300	28,600	28,800
中央値	32,900	33,200	32,700	32,100	32,900	31,500	28,900	26,900	25,700	24,200	22,800
最小値	28,700	29,000	28,600	28,100	29,300	27,800	25,800	24,000	22,700	20,900	18,000

図３－19　富士地域における推定生息頭数の推移

表３－６　市町別 推定生息頭数の推移（中央値）　（単位：頭）

市町	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
沼津市	5,626	6,535	6,664	6,869	7,030	6,900	6,281	5,495	4,628	4,052	3,793
三島市	319	391	422	546	615	665	790	745	662	561	461
裾野市	3,676	4,038	4,469	4,570	5,240	4,945	4,455	3,661	3,669	3,436	2,988
御殿場市	3,607	3,409	3,607	4,184	4,402	4,296	4,383	4,434	4,020	3,480	3,333
富士市	2,871	2,842	2,585	2,358	2,460	2,563	2,067	1,934	1,916	1,879	1,746
富士宮市	14,166	13,667	12,464	12,274	12,116	11,292	9,906	9,496	9,543	9,056	8,401
清水町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長泉町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小山町	5,209	5,367	5,587	4,827	4,760	4,499	4,434	4,219	3,975	3,917	3,733



（注）　値の無いメッシュは、0 又は値不明

図３－20　５km メッシュ別　推定生息頭数（中央値）

８　富士地域の評価・課題

（１）評価

・富士地域における令和７年度の総捕獲頭数は 7,587 頭で、目標の 7,650 頭に対して 99%と、ほぼ目標を達成した。

・神奈川県との広域捕獲計画に基づき、箱根西麓地域で捕獲困難地における管理捕獲を実施し、407 頭を捕獲した。

・陸上自衛隊東富士演習場においては、捕獲従事者が少ないこともあり、令和７年度に演習場内で捕獲したニホンジカは令和６年度よりも 139 頭少なかった。

・推定生息頭数は、平成 27 年度の 59%となり、継続して減少している。

（２）課題

・推定生息頭数は減少しているものの、依然として多い状態が続いているため、引き続き高い捕獲圧を掛ける必要がある。

・陸上自衛隊東富士演習場内は、演習場を管理している陸上自衛隊富士学校と協議を重ねてきた結果、一部の区域は捕獲可能となったが、着弾地等の理由で捕獲可能な区域は敷地の９%にとどまっているため、引き続き、捕獲可能区域の拡大に向けて調整を進めるほか、捕獲従事者の確保に努めていく。

第６　富士川以西地域（南アルプス地域個体群）

市町が立てる「被害防止計画」との整合性を図り、各市町と連携した対策を行うため、各市町の行政境をベースとした 17 ユニットに区分し、管理を行う（図４－１）。

〔管理ユニット（平成 31 年４月１日～）〕

静岡市	静岡市の区域
富士宮市	富士宮市の一部（富士川以西）の区域
富士市	富士市の一部（富士川以西）の区域
川根本町	榛原郡川根本町の区域
島田市	島田市の区域
藤枝市	藤枝市の区域
焼津市	焼津市の区域
吉田町	榛原郡吉田町の区域
牧之原市	牧之原市の区域
御前崎市	御前崎市の区域
菊川市	菊川市の区域
掛川市	掛川市の区域
磐田市	磐田市の区域
袋井市	袋井市の区域
森町	周智郡森町の区域
浜松市	浜松市の区域
湖西市	湖西市の区域

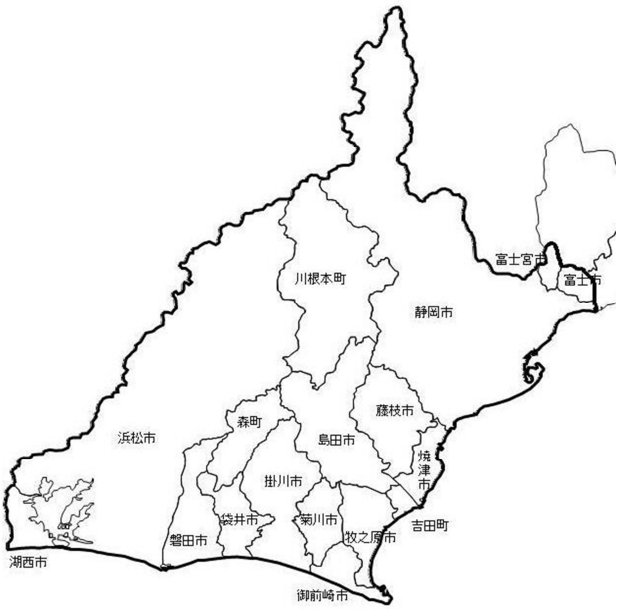


図４－１　富士川以西地域管理ユニット

１　捕獲頭数結果

（１）管理ユニット別捕獲結果

・富士川以西地域における令和７年度ニホンジカの総捕獲頭数は前年度と比べて 165 頭多い 7,160 頭となった。管理ユニット別では、ここ 10 年で増加傾向を示す市町が多く確認された。また、御前崎市や焼津市など、海岸沿いの市町でもニホンジカの捕獲が確認され始めている（表４－１、図４－２）。

表４－１　富士川以西地域市町別捕獲状況

（単位：頭）

管理ユニット	性別	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
		実績	実績	実績	実績	実績
静岡市	オス	1,044	976	1,118	1,153	1,243
	メス	795	757	855	900	874
	不明	0	0	0	0	0
	計	1,839	1,733	1,973	2,053	2,117 △
浜松市	オス	1,074	1,267	1,396	1,338	1,389
	メス	948	1,171	1,387	1,264	1,277
	不明	0	15	6	0	0
	計	2,022	2,453	2,789	2,602	2,666 △
島田市	オス	170	214	262	264	333
	メス	120	154	219	188	219
	不明	0	0	0	0	0
	計	290	368	481	452	552 ▲
磐田市	オス	40	33	32	26	20
	メス	7	3	8	29	37
	不明	0	0	0	0	0
	計	47	36	40	55	57 △
焼津市	オス	0	0	0	0	1
	メス	0	0	0	0	1
	不明	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	2 ▲
掛川市	オス	110	154	201	242	287
	メス	98	196	205	282	335
	不明	0	0	0	0	0
	計	208	350	406	524	622 △
藤枝市	オス	47	35	40	39	55
	メス	32	15	16	21	24
	不明	0	92	73	80	168
	計	79	142	129	140	247 ▲
湖西市	オス	1	0	1	1	2
	メス	0	0	1	0	1
	不明	0	5	3	8	10
	計	1	5	5	9	13 ▲
御前崎市	オス	0	0	0	0	3
	メス	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	3 ▲
川根本町	オス	274	321	331	351	298
	メス	273	313	320	332	225
	不明	0	44	45	77	0
	計	547	678	696	760	523 ▼
森町	オス	175	120	204	210	194
	メス	105	95	153	179	156
	不明	0	0	0	0	0
	計	280	215	357	389	350 ▽
菊川市	オス	2	2	0	1	3
	メス	0	1	0	1	2
	不明	0	0	0	0	0
	計	2	3	0	2	5 ▲
袋井市	オス	1	0	0	3	0
	メス	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	1
	計	1	0	0	3	1 ▼
牧之原市	オス	1	0	0	6	2
	メス	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	6	2 ▼
吉田町	オス	0	0	0	0	0
	メス	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
計	オス	2,939	3,122	3,585	3,634	3,830
	メス	2,378	2,705	3,164	3,196	3,151
	不明	0	156	127	165	179
	計	5,317	5,983	6,876	6,995	7,160 △

（注）△は前年度と比較して数値が増加、▽は減少したことを示す。なお、２割以上の増減は黒塗りしている。

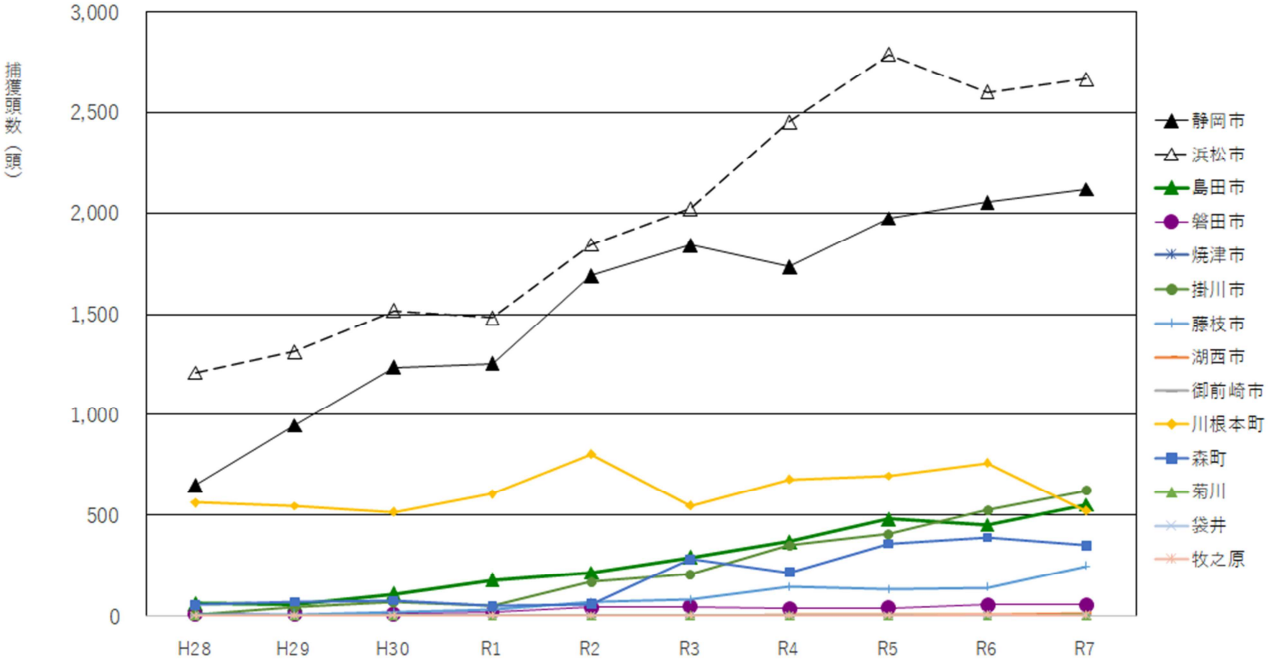
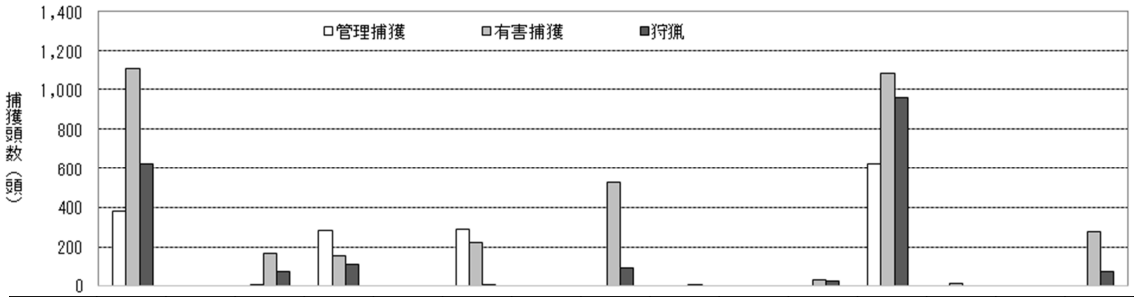


図４-２　富士川以西地域 市町別捕獲頭数推移

（２）捕獲形態別捕獲結果

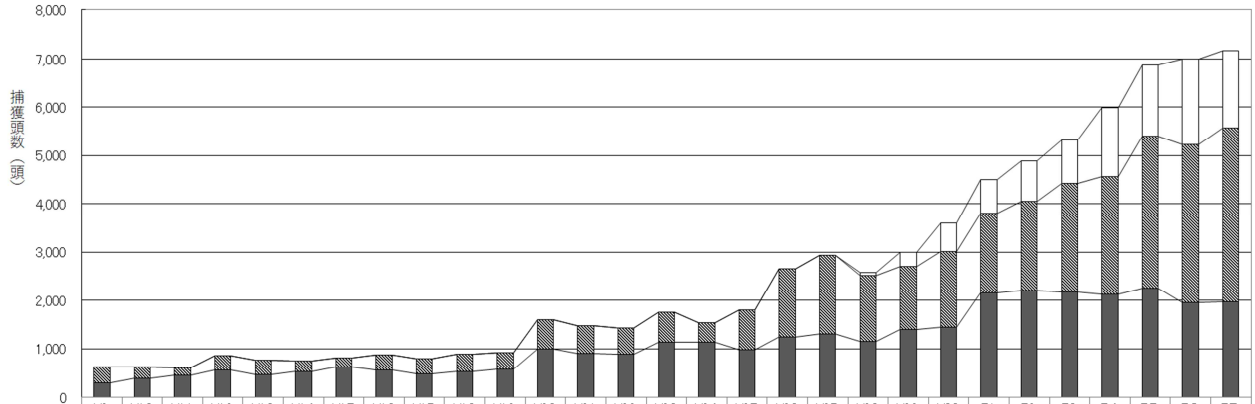
・管理捕獲は、前年度から 174 頭減少して 1,592 頭だった。予算の都合上、捕獲困難地以外の管理捕獲を予定より早く２月 11 日で終了させた影響が大きいと思われる。捕獲全体の半分を占めているのが被害防止目的の捕獲（有害捕獲）であり、前年度から 319 頭増加して 3,593 頭であった。狩猟の捕獲全体に対する割合は前年度から１ポイント減少して 28%となったが、捕獲頭数は前年度より 20 頭増加している（図４－３、図４－４）。

・月別で比較すると、11 月が捕獲頭数が最も多く、その後は減少している（図４－５）。



区分	静岡市	焼津市	藤枝市	島田市	牧之原市	川根本町	吉田町	掛川市	菊川市	袋井市	磐田市	浜松市	湖西市	御前崎市	森町	計	
管理捕獲	382	0	9	286	0	291	0	0	0	0	0	624	0	0	0	1,592	(22%)
有害捕獲	1,108	1	168	155	2	224	0	530	0	1	30	1,085	10	0	279	3,593	(50%)
狩猟	627	1	70	111	0	8	0	92	5	0	27	957	3	3	71	1,975	(28%)
計	2,117	2	247	552	2	523	0	622	5	1	57	2,666	13	3	350	7,160	(100%)

図４－３　富士川以西地域 捕獲形態別 捕獲頭数（市町別）



	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
□管理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	67	292	590	701	843	889	1,428	1,485	1,766	1,592
▨有害	327	236	156	301	297	213	189	310	301	364	349	603	580	543	622	407	832	1,412	1,619	1,356	1,305	1,573	1,636	1,842	2,258	2,431	3,148	3,274	3,593
■狩猟	291	384	452	559	457	529	617	560	487	524	570	992	896	876	1,133	1,128	969	1,248	1,308	1,152	1,397	1,438	2,159	2,205	2,170	2,124	2,243	1,955	1,975
計	618	620	608	860	754	742	806	870	788	888	919	1,595	1,476	1,419	1,755	1,535	1,801	2,660	2,929	2,575	2,994	3,601	4,496	4,890	5,317	5,983	6,876	6,995	7,160

図４－４　富士川以西地域 捕獲形態別 捕獲頭数の推移

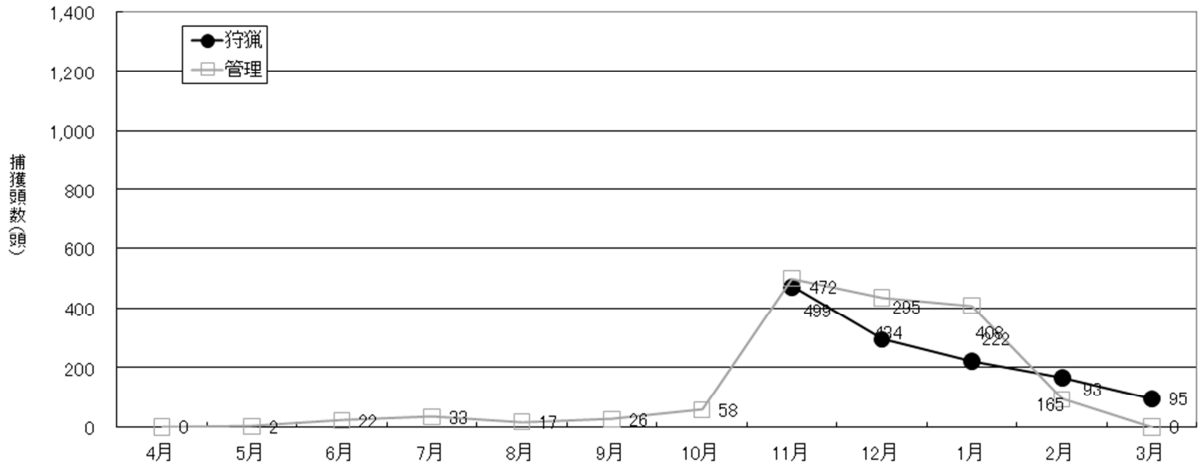


図４－５　富士川以西地域 月別 捕獲形態別捕獲頭数

※有害は捕獲月ではなく、報告月で集計されているため、図４－５から除いた

（4）猟具別捕獲結果

・捕獲におけるわなの割合は 65％で、前年度の 60％と比べて５ポイント高くなった。特に管理捕獲におけるわなの割合は 57％で、前年度の 49％と比べて８ポイント高くなった（表４－２）。

表４－２　猟具別　捕獲頭数（市町別）

管理ユニット	狩猟				有害				管理捕獲				全体			
	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計	銃猟	わな猟	不明	計
静岡市	299	328	0	627	186	921	1	1,108	85	297	0	382	570	1,546	1	2,117
焼津市	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2
藤枝市	29	41	0	70	29	139	0	168	2	7	0	9	60	187	0	247
島田市	36	75	0	111	12	143	0	155	52	234	0	286	100	452	0	552
牧之原市	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1	1	2
川根本町	8	0	0	8	146	78	0	224	74	217	0	291	228	295	0	523
吉田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
掛川市	48	44	0	92	2	528	0	530	0	0	0	0	50	572	0	622
菊川市	1	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	5
袋井市	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
磐田市	15	12	0	27	0	30	0	30	0	0	0	0	15	42	0	57
浜松市	595	362	0	957	262	792	31	1,085	475	149	0	624	1,332	1,303	31	2,666
湖西市	1	2	0	3	0	10	0	10	0	0	0	0	1	12	0	13
御前崎市	0	3	0	3	0	0	0	0								
森町	39	32	0	71	92	187	0	279	0	0	0	0	131	219	0	350
計	1,071 (54%)	904 (46%)	0 (0%)	1,975	729 (20%)	2,831 (79%)	33 (1%)	3,593	688 (43%)	904 (57%)	0 (0%)	1,592	2,488 (35%)	4,639 (65%)	33 (2%)	7,160

２　生息密度調査結果

・令和７年度に、生息密度調査（糞粒法）を 97 地点で実施した結果、生息密度は、前年度から 2.3 頭/km^2 減の 9.6 頭/km^2 となった（図４－６）。

・全体の生息密度は、伊豆、富士地域と比べて低いものの、局所的に高密度な箇所がある（図４－７）。

・令和６年度から令和７年度の密度変化率を見ると、調査を実施した７割程度のメッシュで減少したが、約２割のメッシュでは１％以上増加していた。約 4%のメッシュでは、30%以上増加していた（図４－８）。

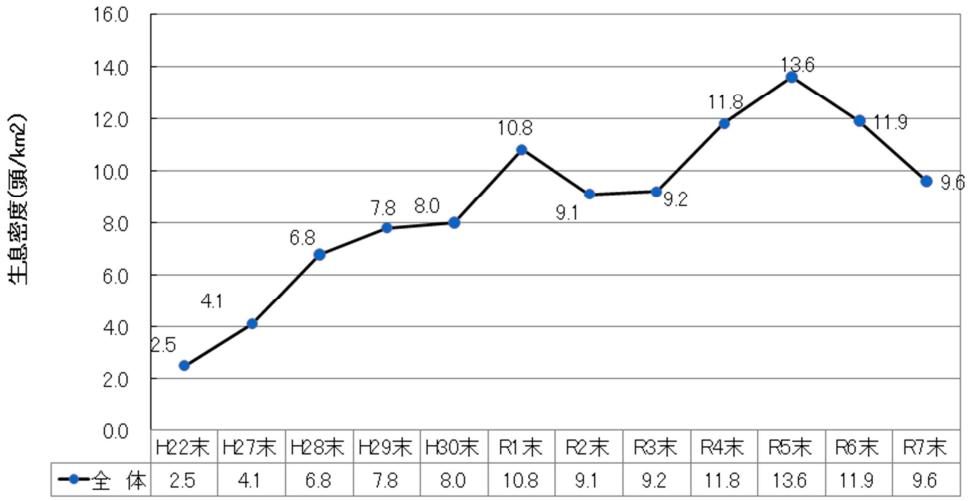


図４－６　富士川以西地域 生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカの生息密度の推移

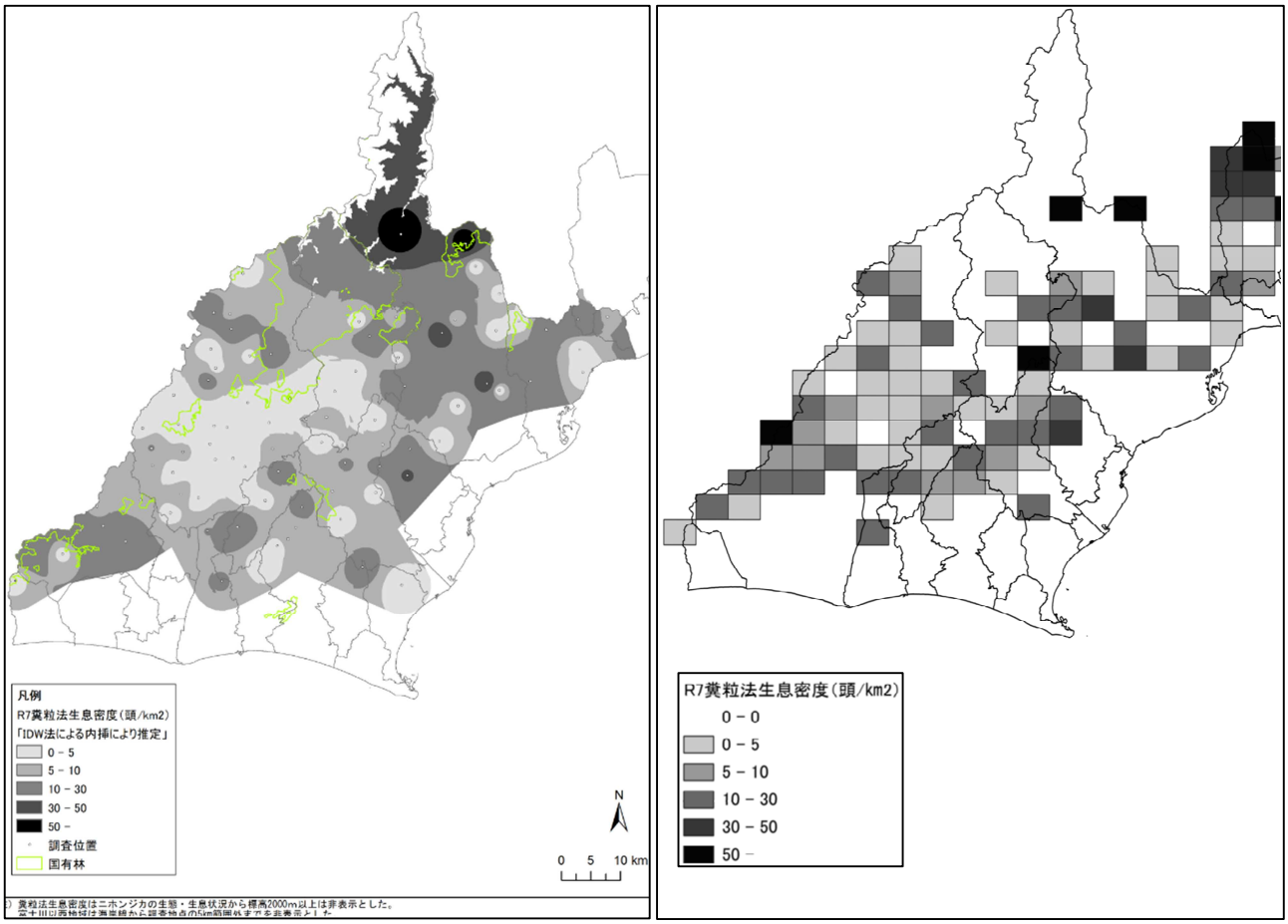


図４－７　生息密度調査（糞粒法）結果によるニホンジカ生息密度分布図

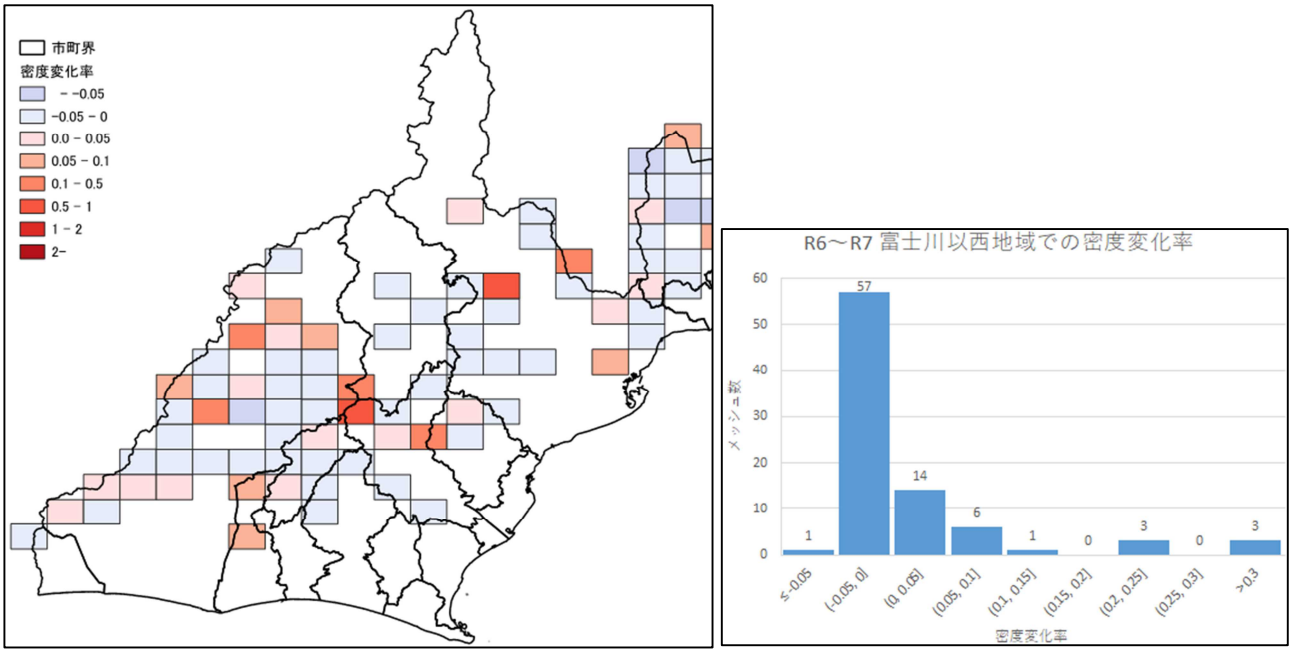


図４－８　令和６年度から７年度にかけてのニホンジカ生息密度変化率

３　管理捕獲の捕獲状況

（１）１km メッシュごとの捕獲状況

・捕獲困難地及び生息密度の高い地域を中心に管理捕獲を実施しているため、海岸沿いの市町では捕獲の実績がない。捕獲困難地での管理捕獲を実施している井川梅地や鳶ノ巣山でメッシュごとの捕獲数が多くなっている（図４－９）。

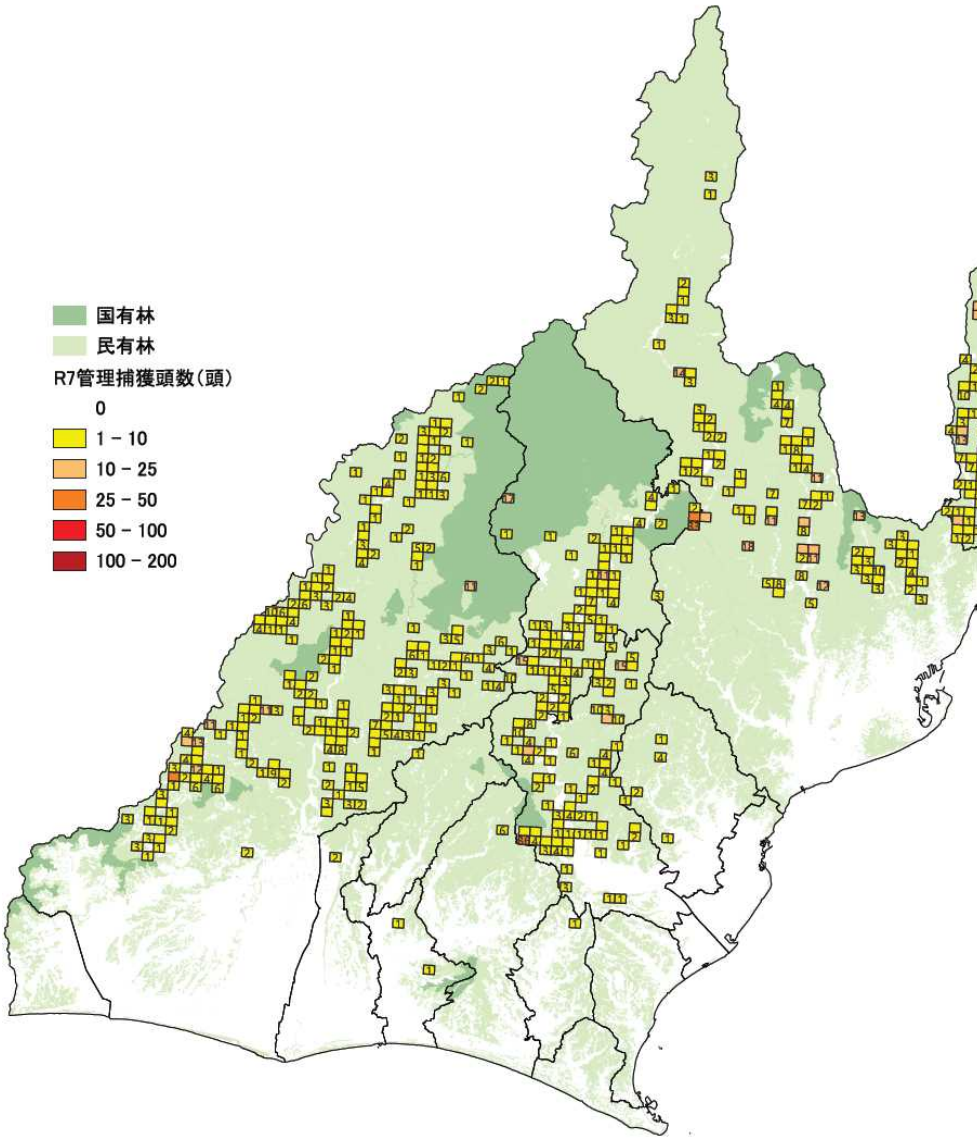


図４－９　管理捕獲　１km メッシュ別捕獲頭数

（２）捕獲困難地における管理捕獲

・捕獲困難地での管理捕獲は２地区において実施し、前年度から 73 頭多い 235 頭捕獲した（図４－10）。

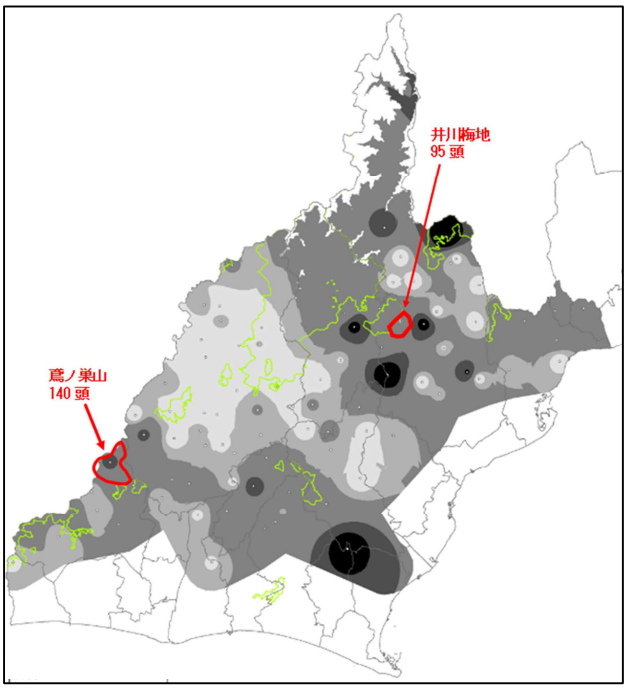


図４－10　令和７年度捕獲困難地管理捕獲の実績

４　南アルプス高標高域におけるニホンジカ対策

・南アルプス高標高域において、ニホンジカの強い採食圧により、高山植物の消滅や樹皮剥ぎによる樹木の枯死等、危機的状況が発生しているため、防鹿柵のほか、平成 30 年度から令和６年度にかけて越冬地（静岡市葵区田代地区）で管理捕獲を実施し、効果確認のためのセンサーカメラ調査を行った。

（単位：頭）

区　分	H30	R 元	R２	R３	R４	R５	R６	R７
推定個体数	32	25	29	24	16	15	6	17

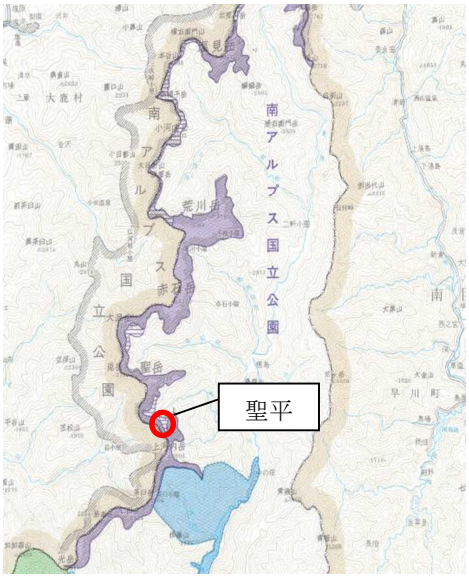


図４－11　南アルプス高標高域位置図



図４－12　聖平周辺センサーカメラ設置箇所位置図

５　生態系への影響について

・令和７年度に、主に落葉広葉樹林の自然林を対象に９地点において下層植生の調査を実施した（図４－13）。

・調査地の約９割が植被率 25%未満だった。不嗜好性植物の出現率は伊豆・富士地域と比べて高くないが、下層植生そのものがほとんどない調査地が多かった（図４－13、図４－14）。また、全ての調査地で採食痕や剥皮が確認された（図４－15）。

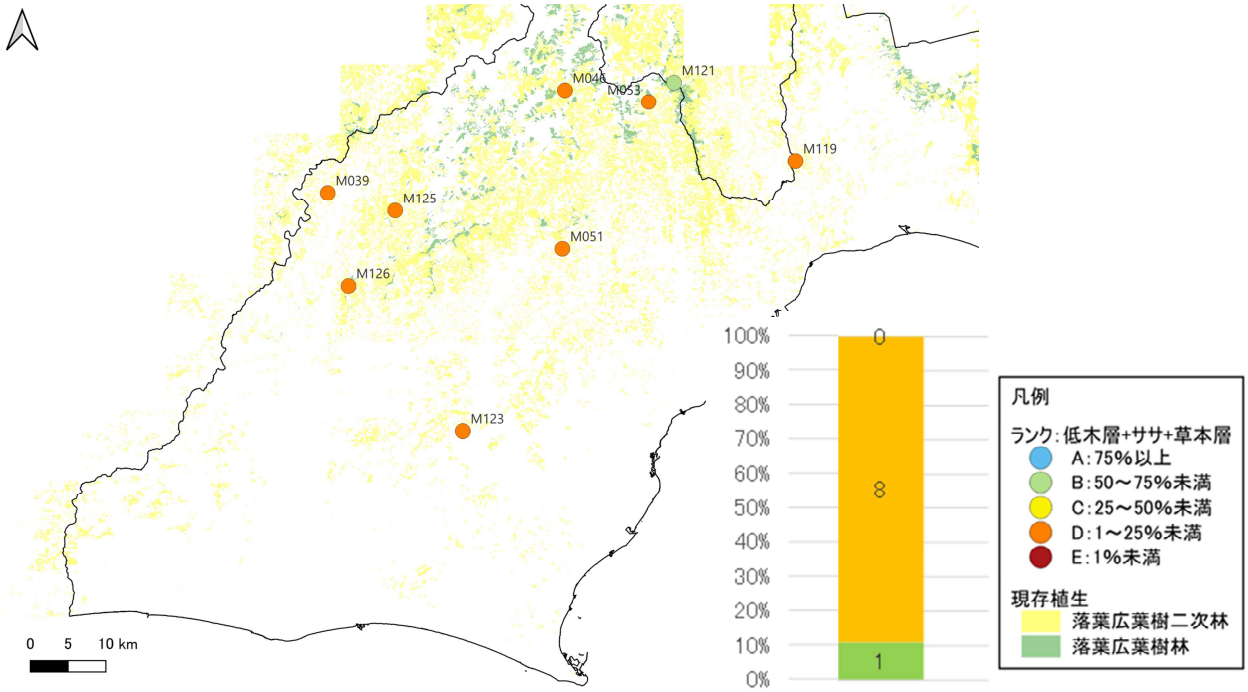


図４－13　下層植生植被ランク（低木層+ササ+草本層）と植被ランク別地点数

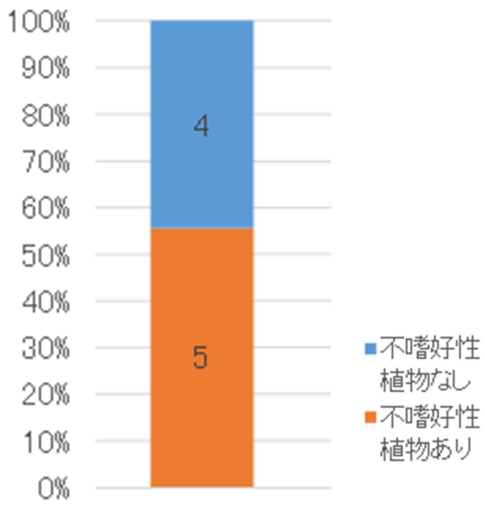


図４－14　不嗜好性植物の有無

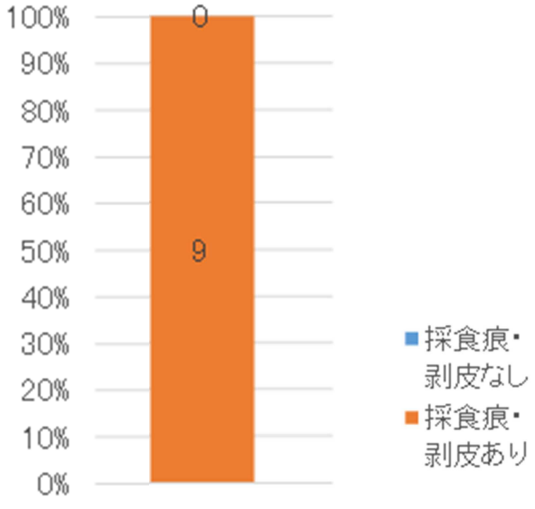


図４－15　採食痕・剥皮の有無

６　農作物被害及び防除対策

・農林産物被害は、年による作物の豊凶や、被害意識の差、相場の変動等により被害額を単純に比較することはできないが、農作物被害額は増加傾向にある（表４－３）。被害面積、被害量も年変動が大きいが、浜松市は増加傾向が続いている（表４－４、表４－５）。

・鳥獣被害集落アンケートは、令和７年度は未実施。参考に令和５年度の結果を添付する。なお、次回実施は令和８年度を予定している（図４－16）。

表４－３　ニホンジカによる市町別農作物被害額の推移

（単位：千円）

	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
静岡市	13,539	15,065	13,305	9,800	12,285	63,994
浜松市	10,815	13,045	14,092	16,319	19,664	73,935
島田市	2,423	3,061	2,849	3,065	4,823	16,221
磐田市	0	0	0	0	0	0
焼津市	0	0	0	0	0	0
掛川市	203	196	2,732	6,132	576	9,839
藤枝市	230	252	248	277	644	1,651
袋井市	0	0	0	227	0	227
湖西市	0	0	0	0	0	0
御前崎市	0	0	0	0	0	0
菊川市	0	0	0	41	63	104
牧之原市	0	0	0	0	0	0
川根本町	3,708	1,363	1,169	1,268	1,570	9,078
森町	2,010	2,670	1,550	841	2,821	9,892
吉田町	0	0	0	0	0	0
計	32,928	35,652	35,945	37,970	42,446	184,940

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

表４－４　ニホンジカによる市町別農作物被害面積の推移

（単位：ａ）

	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
静岡市	3,358	3,913	5,978	2,911	4,695	20,855
浜松市	1,916	1,721	3,746	1,917	4,388	13,688
島田市	61	70	124	69	102	426
磐田市	0	0	0	0	0	0
焼津市	0	0	0	0	0	0
掛川市	25	24	288	556	60	953
藤枝市	16	19	17	20	39	111
袋井市	0	0	0	26	0	26
湖西市	0	0	0	0	0	0
御前崎市	0	0	0	0	0	0
菊川市	0	0	0	3	1	4
牧之原市	0	0	0	0	0	0
川根本町	164	61	61	50	65	401
森町	92	93	108	94	138	525
吉田町	0	0	0	0	0	0
計	5,632	5,901	10,322	5,646	9,488	36,989

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

表４－５　ニホンジカによる市町別農作物被害量の推移

（単位：ｔ）

	R3	R4	R5	R6	R7（速報値）	R3－R7　計
静岡市	93.50	101.52	49.30	36.06	42.30	323
浜松市	37.00	40.53	47.90	58.89	61.10	245
島田市	7.01	8.65	9.52	7.59	10.49	43
磐田市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0
焼津市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0
掛川市	1.02	0.98	11.32	23.03	1.66	38
藤枝市	1.08	1.14	1.13	1.24	1.90	6
袋井市	0.00	0.00	0.00	1.10	0.00	1
湖西市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0
御前崎市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0
菊川市	0.00	0.00	0.00	0.16	0.19	0
牧之原市	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0
川根本町	24.23	8.90	9.19	7.15	3.43	53
森町	7.82	9.03	7.32	4.04	12.78	41
吉田町	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0
計	171.66	170.75	135.66	139.27	133.85	751

※調査方法が令和7年度（対象：令和6年度被害）から変更となった。

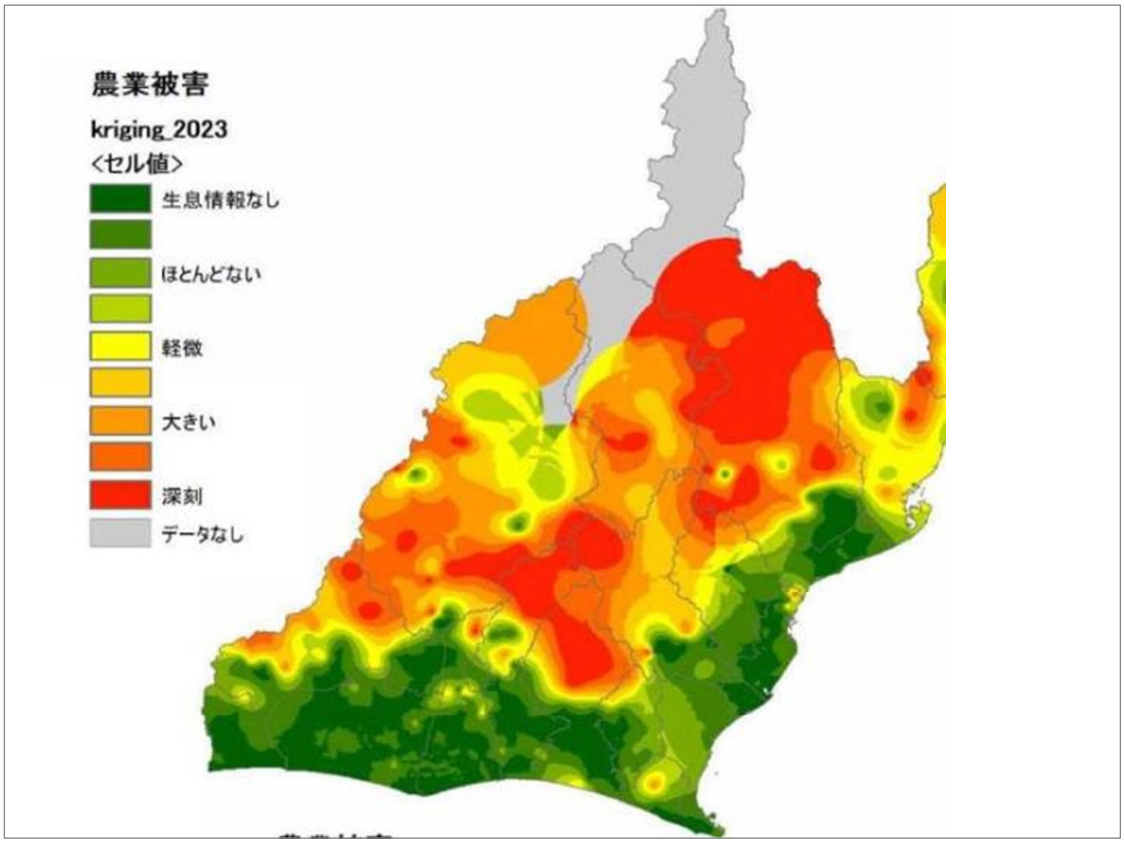
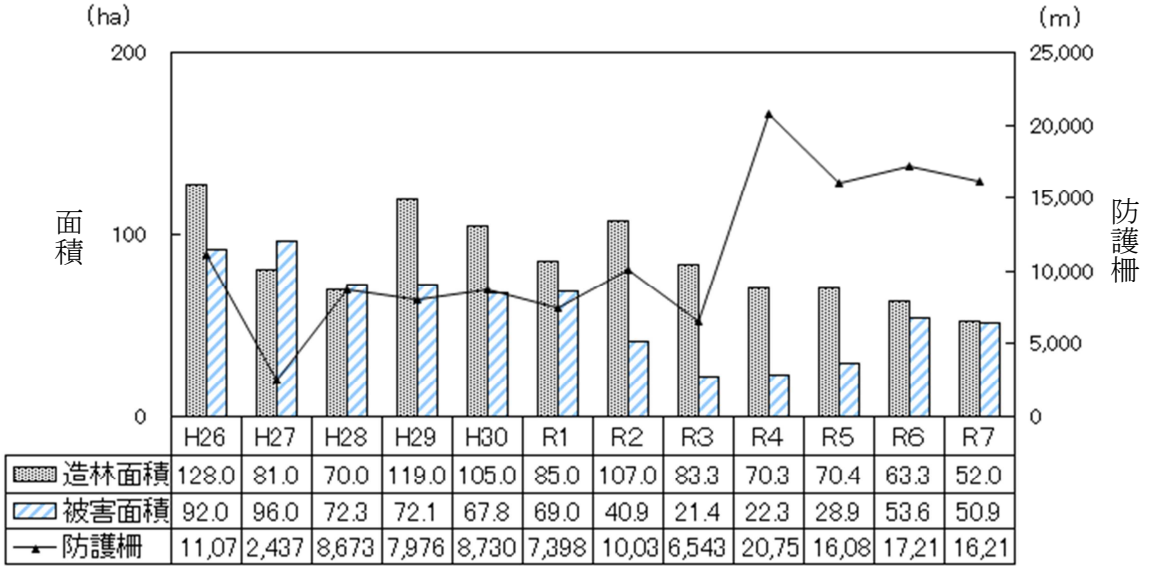


図４－16　令和５年度鳥獣被害集落アンケートによる農業被害の実態

7　林業被害及び防除対策

・民有造林地では、造林と併せて防護柵を設置しているため、被害は抑えられている（図４－17）。

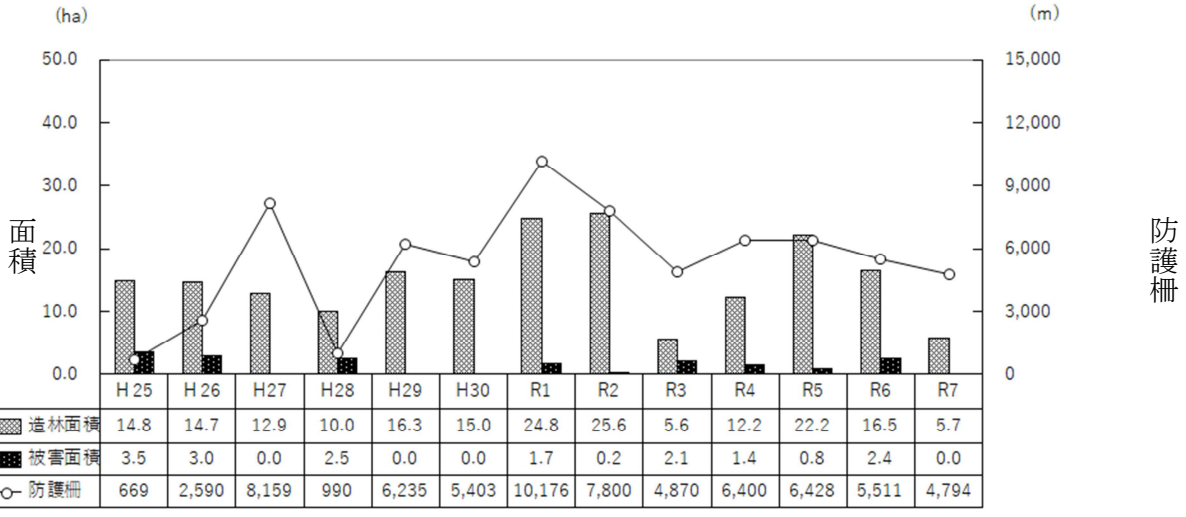
・国有林では、被害防除のための防護柵の設置が進んだことなどにより、顕著な被害は報告されていない（図４－18）。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
造林面積	128.0	81.0	70.0	119.0	105.0	85.0	107.0	83.3	70.3	70.4	63.3	52.0
被害面積	92.0	96.0	72.3	72.1	67.8	69.0	40.9	21.4	22.3	28.9	53.6	50.9
防護柵	11,07	2,437	8,673	7,976	8,730	7,398	10,03	6,543	20,75	16,08	17,21	16,21

図４－17　民有林の造林面積と林業被害面積及び防護柵設置延長の推移

※被害面積及び防護柵は、市町別の集計であるため、富士市と富士宮市を全て富士地域として取り扱ったことから、富士川以西の富士市、富士宮市分が含まれてない。



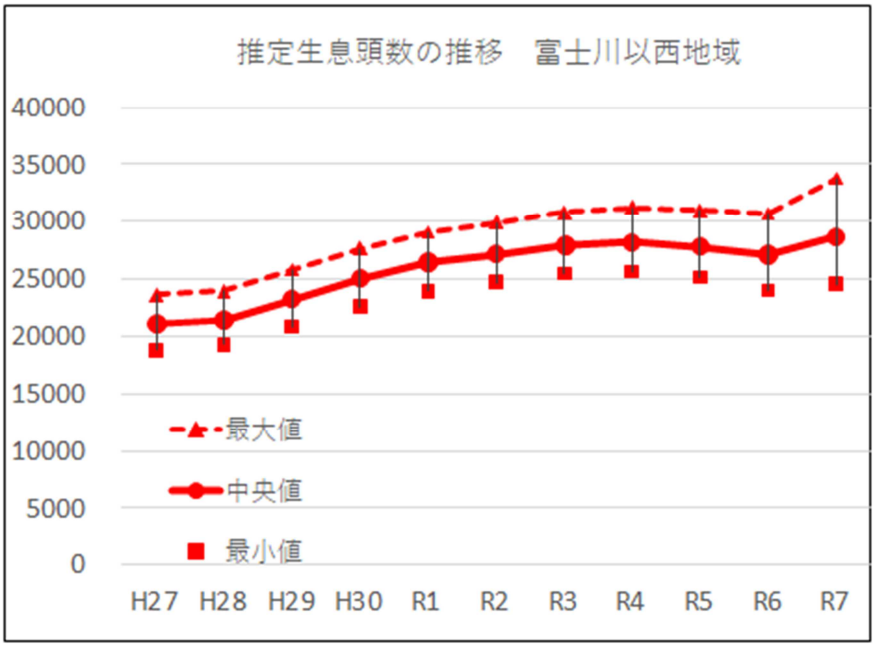
	H 25	H 26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
造林面積	14.8	14.7	12.9	10.0	16.3	15.0	24.8	25.6	5.6	12.2	22.2	16.5	5.7
被害面積	3.5	3.0	0.0	2.5	0.0	0.0	1.7	0.2	2.1	1.4	0.8	2.4	0.0
防護柵	669	2,590	8,159	990	6,235	5,403	10,176	7,800	4,870	6,400	6,428	5,511	4,794

図４－18　国有林の造林面積と林業被害面積及び防護柵設置延長の推移

８　推定生息頭数

・令和７年度の推定生息頭数（中央値）は 28,700 頭となり、令和６年度から約 3,100 頭の増加に転じた。（図４－19）。市町別で見ると、静岡市や浜松市、川根本町など捕獲頭数が多い市町では減少傾向にあるものもあるが、掛川市や藤枝市など捕獲頭数の少ない市町では増加傾向にある（表４－６）。

また、５km メッシュ別で比較すると、特に川根本町と島田市及び浜松市と森町の山間部の市町境にかけて、生息頭数が多い（図４－20）。

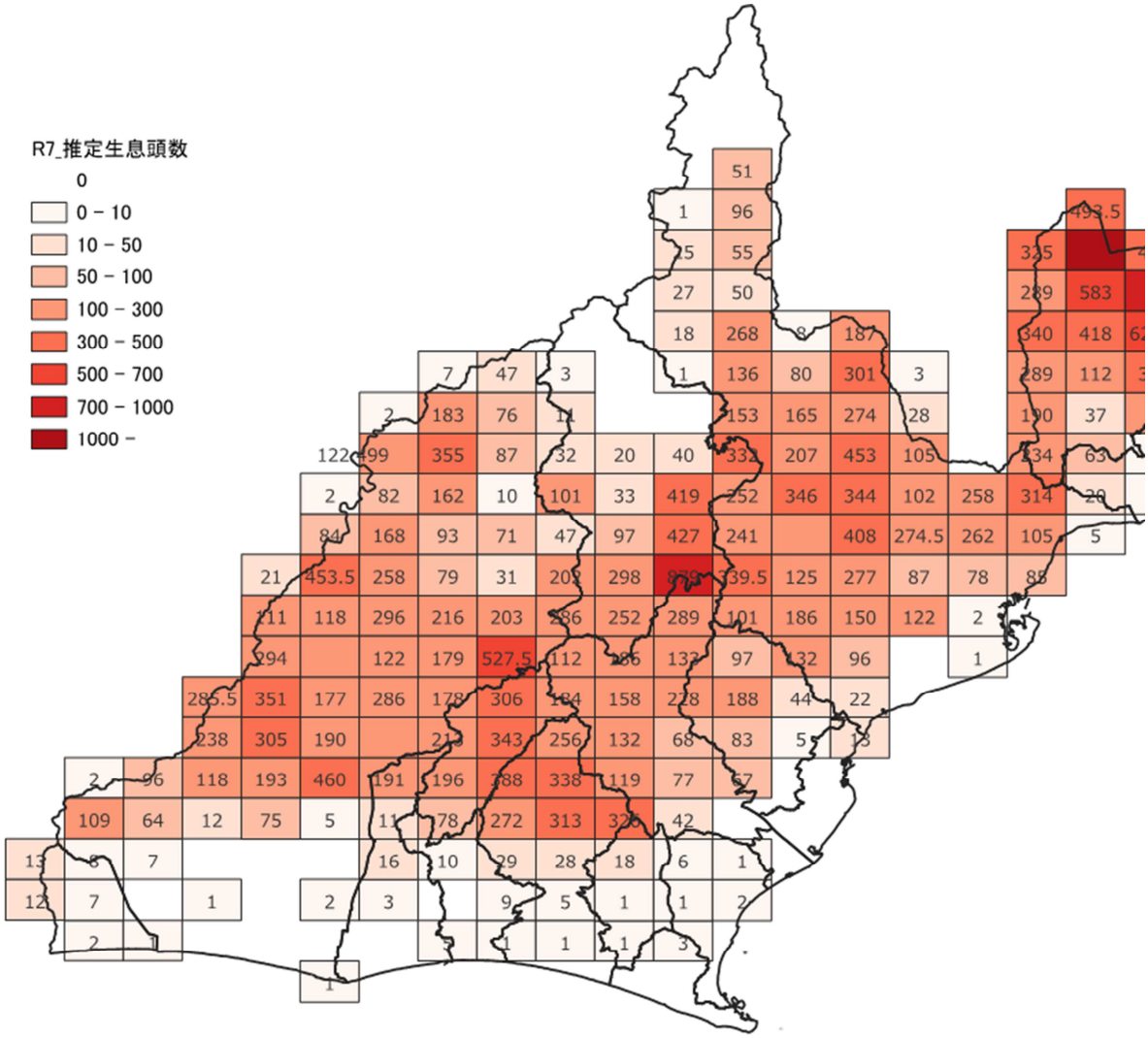


年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
最大値	23,700	24,000	25,800	27,700	29,100	29,900	30,800	31,200	31,000	30,700	33,800
中央値	21,100	21,500	23,300	25,100	26,400	27,200	27,900	28,200	27,800	27,100	28,700
最小値	18,800	19,300	20,900	22,700	24,000	24,800	25,500	25,700	25,200	24,000	24,600

図４－19　推定生息頭数の推移

表４－６　市町別 推定生息頭数の推移（中央値）　（単位：頭）

市町	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
静岡市	6,299	6,669	7,623	8,528	8,995	8,918	8,771	8,817	8,513	8,240	8,691
浜松市	8,914	8,943	9,236	9,602	9,851	10,130	10,396	10,134	9,731	9,137	9,699
島田市	606	721	931	1,158	1,337	1,597	1,817	1,936	1,918	1,991	1,955
磐田市	106	125	109	114	116	149	159	191	276	288	228
掛川市	401	504	717	801	1,074	1,328	1,706	2,026	2,189	2,279	2,187
藤枝市	88	108	139	177	257	319	407	443	493	555	537
湖西市	25	25	26	30	34	41	29	29	30	36	38
川根本町	4,062	3,733	3,716	3,857	3,804	3,369	3,358	3,249	3,249	3,042	3,595
森町	349	411	478	498	647	979	937	1,012	972	1,046	1,010
菊川市	11	9	10	10	10	12	16	20	24	24	20
袋井市	12	10	9	9	10	12	17	23	36	27	27
牧之原市	18	21	24	18	15	15	13	12	13	12	12
吉田町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



（注）　値の無いメッシュは、0 又は値不明

図４－20　５km メッシュ別　推定生息頭数

８　富士川以西地域の評価・課題

（１）評価

・静岡市と川根本町との境（井川梅地等）、局所的に生息密度が高い地域の一部について、管理捕獲で集中的に捕獲圧を掛けることができた。

・南アルプスの高標高域におけるニホンジカ対策としては、防鹿柵の設置・修繕と合わせて、捕獲圧を掛け、推定個体数を減少させることができた。

（２）課題

・富士川以西地域の推定生息頭数は、地域全体では伊豆地域や富士地域のように多くはないが、緩やかに上昇している。また、依然として、局所的に高密度な場所が確認されており、生息区域も拡大している。

・このため、著しい個体数の増加とそれに伴う被害の深刻化が地域全体に拡大する前に、高い生息密度が確認された場所周辺でいち早く捕獲に取り組む必要がある。